令和５年度

小 中 英 研

いしかわ

第 33 号

石川県小中学校英語教育研究会

表紙マーク

は Teaching、
は English の頭文字であり、この２文字で石川県の地形的特徴を形どったものである。

石川県中学校英語教育研究会のこれからの発展を願って、平成元年３月に図案化された我々の emblem である。

目　　次

1　巻頭言

石川県小中学校英語教育研究会　会長

金沢市立鳴和中学校　校長　森中　静恵　・・・・・・・・4

2　石川県小中学校英語教育研究会　会則　・・・・・5,6

3　令和５年度役員名簿　・・・・・・・7

4　令和５年度研究会組織　・・・・・・・8

5　令和５年度専門部組織　・・・・・・・9

6　令和５年度事業報告　・・・・・・・10

7　県小中英研　秋の研究大会　・・・・10～15

授業者：小松市立芦城中学校　教諭　松村　賢一

単元名：Lesson 5　Things to Do in Japan　(NEW CROWN English Series 2)

授業者：小松市立芦城中学校　教諭　森田　久陽

単元名：Lesson 5 I have a Dream (NEW CROWN English Series 3)

報告者：幹事長　金沢市立西南部中学校　教諭　木村　祐太

8　県小中英研　８地区研究発表会　・・・・16,17

内容　　：石川県内８地区の研究発表

報告者　：研究委員長　白山市立笠間中学校　教諭　吉田　基伸

9　第４７回東海北陸公立英語教育研究会　富山大会　・・・・18～21

大会テーマ：コミュニケーション能力を養うにはどのように指導したらよいか

―聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して―

報告者　　：編集委員長　白山市立笠間中学校　教諭　福田　茜

１０　各郡市活動報告　・・・・・22～

会誌「いしかわ」の発行に当たって

石川県小中英語教育研究会
会長　森中　静恵
（金沢市立鳴和中学校長）

はじめに、このたびの令和６年能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。さらに、被災された地域の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

今年度、石川県小中学校英語教育研究会の活動にご理解とご協力をいただき、皆様方には心より感謝申し上げます。令和５年度の主要事業でありました夏季研修会、秋の研究大会及び８地区研究発表会を無事に行うことができたことは大きな喜びです。

夏季研修会につきましては、７月２７日に地場産業展示館におきまして、約６０名の会員の参加に参加いただき北陸学院大学の伊藤雄二教授と信州大学の酒井英樹教授より貴重なご講演を賜りました。すぐに学校の授業に生かせる内容でとても勉強になりました。

秋の研究大会につきましては、１０月２５日に小松市学校教育研究会外国語活動・英語部会のご協力のもと小松市立芦城中学校において開催されました。加賀から能登まで７０名以上の会員が集まり、地域を超えた協議ができました。実際に授業を皆で参観し、生き生きと学ぶ生徒の姿や様々な工夫を凝らした教師の働きかけ等について意見交換できたことはとても有意義だったと思います。本当にありがとうございました。

８地区研究発表会につきましては、１１月２９日にウェブ会議システムを活用して、開催されました。各地区の代表者による研究発表が行われ、多くの会員の皆様方にオンラインで視聴していただきました。これからも理想とする授業に近づくよう研究し、実践を振り返って改善を重ねられることを期待しています。知恵を絞り、積み上げられた成果をご披露していただき、ありがとうございました。

令和２年度に石川県中学校英語教育研究会は小中学校英語教育研究会へと組織を発展させ、４年目を迎えます。先に述べました事業には、小学校の先生方にもご参加いただき、おかげさまで校種を超えた研究協議ができました。会員の相互交流を通した研究と実践というこの新たな一歩が、これからの未来を担う子供たちの英語力を育むための着実な歩みへとつながっていけば幸いです。今後も皆様方のより一層のご理解とご協力をお願いし、令和５年度の会誌「いしかわ」の発行に当たってのご挨拶といたします。

石川県小中学校英語教育研究会会則

（名称）
第１条　本会は、石川県小中学校英語教育研究会と称する。

（目的）
第２条　本会は、石川県の英語教育の振興をはかるための事業及び研究交流を行うことを目的とする。

（会員）
第３条　本会の会員は、石川県内の小中学校、或いは他の教育機関に勤務し、英語教育に携わっている者、並びにこの会の目的に賛同して入会を希望する者とする。

（事業）
第４条　本会は、第２条の目的を達成するために次の事業を行う。
１．英語教育に関する研究会
２．研修会・講演会等の開催
３．研究機関誌『英研会誌』の発行
４．研究物・機関誌・研究情報等の交換
５．他の研究団体との連絡並びに提携
６．その他、目的達成のための必要な事業

（役員）
第５条　本会には、次の役員を置く。
会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計、会計監査、顧問

（役員の任務）
第６条　役員の任務は、次のとおりとする。
・会長は、本会を代表し、会務を総理する。
・副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
・幹事長は、会長、副会長を補佐し、本会の会務を処理する。
・副幹事長は、専門委員長を兼ね、専門委員会の会務を処理する。
・会計は、会計事務を司る。
・会計監査は、会計を監査する。
・顧問は、本会が円滑に運営されるよう助言をする。

（役員の選出及び任期）
第７条　役員の選出は次のとおりとし、任期は１年とする。ただし、再任は妨げない。
１．会長、副会長、会計監査及び顧問は、理事会で選出する。
２．会長には、小中学校長をもって充てる。
３．副会長には、小学校長１名、及び能登・金沢・小松の３ブロックの中学校長または教頭を充てる。
４．幹事長、副幹事長及び会計は会長が委嘱する。

（機関）
第８条　　本会には、次の機関を置く。
・理事会　・運営委員会　・専門委員会　・郡市委員会

（理事会）
第９条１　理事会は本会の議決機関であり、各郡市より選出された理事と役員で構成し、年２回会長が招集するほか、必要のある時には臨時に開くことができる。
２　理事会では、次の事項を審議決定する。
１．会則等の改正に関すること
２．役員等の承認に関すること
３．事業や研究の大綱に関すること
４．予算に関すること
５．その他本会の運営に関すること

（運営委員会）
第 10 条　　運営委員会は、会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計で構成し、本会の執行機関としてその目的を遂行するための会務を行う。

（専門委員会）
第 11 条　　本会には、研究委員会、編集委員会、東陸準備室を置き、理事会の決定に従って会務を推進する。

（郡市委員会）
第 12 条　　郡市委員会は、各郡市より選出された郡市委員で構成し、本会の事業の充実や会務の円滑な実施に向けて、各郡市及び域内の学校との連絡・調整を行う。

（経理）
第 13 条　　本会の経費は、会費・補助金・その他の収入をもって充てる。
２　　会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

（事務局）
第 14 条　　本会の事務局は、会長が委嘱する学校に置くことを原則とする。

（規定）
第 15 条　　本会の運営に必要な規定は、別にこれを定めることができる。

付　則　　１．本会則は令和２年４月１日より施行する。

令和５年度 石川県小中学校英語教育研究会 役員名簿

	役　職	氏　名	所　属	郡市・ブロック	職　名
	会　長	森中　静恵	鳴和中学校	金沢ブロック	校長
1	副会長	室井　登美子	泉小学校	〔小学校〕	校長
2	副会長	泉　智一	津幡中学校	金沢ブロック	校長
3	副会長	若山　直代	荒屋小学校	小松ブロック	校長
4	副会長	坪野　昭	能登香島中学校	能登ブロック	校長
1	理　事	尾﨑　純子	山中小学校	加　賀（小松ブロック）	校長
2	理　事	若山　直代	荒屋小学校	小　松（小松ブロック）	校長
3	理　事	藤本　智子	福岡小学校	能　美（小松ブロック）	校長
4	理　事	若狭　朋幸	光野中学校	白　山（金沢ブロック）	校長
5	理　事	松田　英樹	布水中学校	野々市（金沢ブロック）	校長
6	理　事	森中　静恵	鳴和中学校	金　沢（金沢ブロック）	校長
7	理　事	泉　智一	津幡中学校	河　北（金沢ブロック）	校長
8	理　事	釜谷　剛	瑞穂小学校	羽咋市（能登ブロック）	校長
9	理　事	立中　善英	富来小学校	羽咋郡（能登ブロック）	教頭
10	理　事	坪野　昭	能登香島中学校	七　尾（能登ブロック）	校長
11	理　事	村田　真紀子	鹿島小学校	鹿　島（能登ブロック）	教頭
12	理　事	冨水　聡	鳳至小学校	輪　島（能登ブロック）	校長
13	理　事	吉村　明美	穴水小学校	鳳　珠（能登ブロック）	校長
14	理　事	河元　智志	蛸島小学校	珠　洲（能登ブロック）	校長
1	郡市委員	小川　健生	錦城中学校	加　賀（小松ブロック）	教諭
2	郡市委員	石田　ゆかり	安宅中学校	小　松（小松ブロック）	教諭
3	郡市委員	北川　千尋	辰口中学校	能　美（小松ブロック）	教諭
4	郡市委員	熊谷　卓人	北星中学校	白　山（金沢ブロック）	教諭
5	郡市委員	竹田さくら	野々市中学校	野々市（金沢ブロック）	教諭
6	郡市委員	安江　靖子	泉中学校	金　沢（金沢ブロック）	教諭
7	郡市委員	澤　友香	津幡中学校	河　北（金沢ブロック）	教諭
8	郡市委員	浅野　敏一	羽咋中学校	羽咋市（能登ブロック）	教諭
9	郡市委員	大岡　真弓	志賀中学校	羽咋郡（能登ブロック）	教諭
10	郡市委員	清水　梨乃	七尾中学校	七　尾（能登ブロック）	教諭
11	郡市委員	山外百合恵	中能登中学校	鹿　島（能登ブロック）	教諭
12	郡市委員	沖﨑　俊樹	門前中学校	輪　島（能登ブロック）	教諭
13	郡市委員	岡本　春佳	能都中学校	鳳　珠（能登ブロック）	教諭
14	郡市委員	苗代　勇輝	三崎中学校	珠　洲（能登ブロック）	教諭
	《 事務局 》				
1	幹事長	木村　祐太	西南部中学校	金　沢（金沢ブロック）	教諭
2	副幹事長	吉田　基伸	笠間中学校	白　山（金沢ブロック）	教諭
3	副幹事長	福田　茜	笠間中学校	白　山（金沢ブロック）	教諭
4	副幹事長	河隅　慶子	四十万小学校	〔小学校〕	教諭
5	顧　問	野竹　陽一	鳴和中学校	金　沢（金沢ブロック）	主幹教諭
6	会　計	木村　祐太	西南部中学校	金　沢（金沢ブロック）	教諭
7	会計監査	武藤　祐美子	高岡中学校	金　沢（金沢ブロック）	教諭
8	会計監査	嶽　圭祐	松任中学校	白　山（金沢ブロック）	教諭
	顧　問	滝沢　雄一	金沢大学人間社会研究域学校教育系		教授
	顧　問	久保　拓也	金沢大学人間社会研究域学校教育系		准教授
	顧　問	県市教育委員会	指導主事等		

令和５年度石川県小中学校英語教育研究会　組織

会　長　　１名　（原則中学校長より選出）

副会長　　４名　理事より選出

小学校部会　１名

中学校部会　３名（原則）

〔小松ブロック１名、金沢ブロック１名、能登ブロック１名〕

理　事　　１４名（原則管理職）

小松ブロック：加賀、小松、能美郡市

金沢ブロック：白山、野々市、金沢、河北郡市

能登ブロック：羽咋市、羽咋郡、七尾、鹿島、輪島、鳳珠、珠洲

幹事長　　１名　金沢ブロック（中学校部会）より選出。運営委員長を兼ねる

副幹事長　　３名　金沢ブロックより選出

・小学校部会　１名（当面は連絡・調整等のみ担う）

・中学校部会　２名（研究委員長、編集委員長が兼任する）

会　計　　２～３名　金沢ブロックより選出（小学校部会１名を含む）

郡市委員　　１４名　各郡市より選出

会計監査　　２名　金沢ブロックより選出

・小学校部会　１名

・中学校部会　１名

専門委員会委員長

運営委員長　　：県小中英研幹事長が兼ねる。

研究委員長　　：県小中英研　副幹事長を兼ねる。

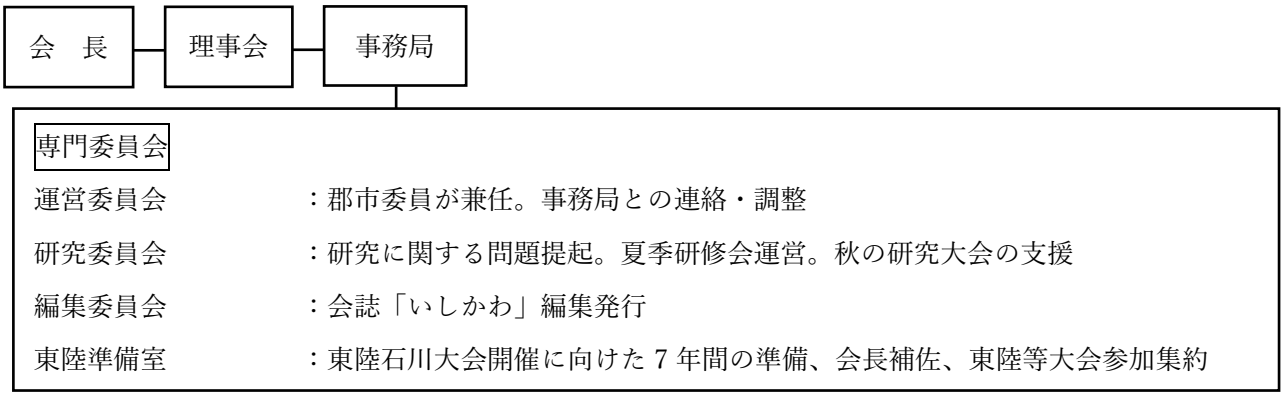
編集委員長　　：県小中英研　副幹事長を兼ねる。

東陸準備室長　　：県小中英研　事務局の顧問を兼ねる。

事務局

幹事長、副幹事長、会計等で構成する。

〔組織図〕



令和5年度　石川県小中学校英語教育研究会　専門部組織

運営委員会　　・各郡市への連絡・調整　　・郡市会員より会費徴収

（郡市委員兼任）　県中英研幹事長１名　＋　郡市委員１４名　＝　１５名

幹事長		加賀	錦城中学校	小川　健生	小松	安宅中学校	石田　ゆかり
西南部中学校	木村　祐太	能美郡市	辰口中学校	北川　千尋	白山	北星中学校	熊谷　卓人
		野々市	野々市中学校	竹田さくら	羽咋市	羽咋中学校	浅野　敏一
		河北郡市	津幡中学校	澤　友香	七尾	七尾中学校	清水　梨乃
		羽咋郡	志賀中学校	大岡　真弓	輪島	門前中学校	沖﨑 俊樹
		鹿島	中能登中学校	山外百合恵	珠洲	三崎中学校	苗代　勇輝
兼務不可		鳳珠	穴水中学校	岡本　春佳	金沢	泉中学校	安江　靖子

編集委員会・会誌「いしかわ」の編集と発行　・諸会合における記録

委員長兼県中英研副幹事長１名　＋　金沢市近隣地区４名　＝　５名

委員長		白山野々市	野々市中学校	竹田さくら	金沢		後日決定
福田　茜	笠間中学校	河北郡市	宇ノ気中学校	永井　俊和	金沢		後日決定

研究委員会　　夏季研修会と秋の研究大会の運営

委員長兼県中英研副幹事長１名　＋　全８地区各１名　＝　９名

委員長		加賀	錦城中学校	徳田　祐也	河北郡市	河北台中学校	蔵谷　朋也
吉田　基伸	笠間中学校	小松	丸内中学校	齋藤　美希	羽・七・鹿	七尾東部中学校	和田　千春
		能美郡市			鳳・輪・珠	緑丘中学校	末田　翔吾
		白山野々市	北星中学校	熊谷　卓人	金沢	高尾台中学校	吉岡　恵梨

東陸準備室　令和７年の東陸石川大会に備える部署　会長の補佐　外部関係業務の執行　大会参加集約

若干名（中英研事務局経験者）

		室長	鳴和中学校	野竹　陽一			

事務局　　・関係機関（教育委員会、大会会場など）との連絡調整　・会計業務全般

幹事長 西南部中学校 木村　祐太		副幹事長(編)	笠間中学校	福田　　茜	会計	西南部中学校	木村　祐太
		副幹事長(研)	笠間中学校	吉田　基伸	副幹事長(小)	四十万小学校	河隅 慶子
		東陸準備室	鳴和中学校	野竹　陽一			

令和５年度事業報告

令和５年６月１日（木）第１回理事・郡市委員研修会　１５：３０～　Zoomにて
参加者：理事及び郡市委員
1. 令和５年度役員選出
2. 令和５年度組織・事業・予算案 協議
3. 令和５年度以降の研究体制について(確認)

令和５年７月２７日（木）夏季研修会　１０：００～１５：００　約６０名の参加
会　場：地場産業振興センター
内　容：講師　伊藤　雄二　氏（北陸学院大学　教育学部　教授）
　　講師　酒井　英樹　氏（信州大学　　教育学部　教授）

令和５年８月　東海北陸公立学校英語教育研究会（富山大会）
会　場：プレバラン　高志会館（富山駅から徒歩10分）
日　程：８月８日（火）、９日（水）

令和５年１０月　特別ワークショップ　約１０名の参加
会　場：オンライン
日　程：１０月７日（土）１６：００～１８：００

令和５年　１０月　秋の研究大会　約７０名の参加
会　場：小松市立芦城中学校（R５：小松地区の担当）
日　程：１０月２５日（水）　１３：３０～
内　容：研究授業と協議会

令和５年１１月２４日(金)・２５日(土)　全英連愛媛大会
会　場：１日目　松山市民会館大ホール
　　２日目　愛媛大学共通教棟

※令和5(2023)年度の愛媛大会は、オンラインではなく対面方式で実施。
大会参加費も従来通り6000円（小学校教員は3000円、学生は1500円）

令和５年１１月２９日（水）　８地区研究発表会
会　場：Zoomにて
時　間：１５：００～１６：３０

令和６年２月１６日(金)第２回理事・郡市委員研修会　１５：３０～　Zoomにて
参加者：理事及び郡市委員
1. 令和５年度事業、決算報告
2. 令和６年度組織、研究体制等についての協議
3. 令和６年度事業計画、年度当初報告書類の連絡
4. 各専門部からの連絡

令和６年２月　会誌「いしかわ」発行　(HPで発行)

秋の研究大会 授業報告

2023 年度の県小中英研の秋の研究大会は小松市立芦城中学校で開催された。芦城中学校の熱心な研究に対する姿勢より、下記の二つの授業を公開していただいた。

１２年１組 松村 賢一教諭

本時の授業では、すでに学習した比較表現等を用いて、学校情事や好きな食べ物などのアンケート結果を示したグラフの内容や自分の考えを ALT の先生に伝えるというものであった。

授業は序盤、ALT の先生がなぜそれを知りたがっているのか、ALT の先生の英語から始まり、事前に実際に生徒から集計したアンケートを元に、どのような表現で伝えられるかの確認が行われた。

その後、ALT 先生役と教える生徒役の立場になり、グラフなどを見せながら相手に伝えるスピーキングの活動を行った。授業の終末は、話した内容を英語で書いた。

参観者からは、以下のような声が上がった。

・フォーマットがあって多くの子にとって取り組みやすかったのではないか。

・わざわざ実際に生徒から集めたアンケートを下に授業がスタートしたことで、生徒の反応も良かった。

・生徒の考えを先生が大切にしながら授業を進めていた。

西野 真弓指導主事からは、

・形容詞が popular のみの使用だったので、この活動だけで「知識・技能」を測れたのか。

・型を示しすぎではないか。

・書くことがゴールだったので、一度書いてみて、話してみて、その後書き直すようなサイクルも有効だったのではないか。というような意見が出た。

２３年３組 森田 久陽教諭

キング牧師についての本を貸してくれた花に向けて、その本の内容について読み取ったことや感想を書くことができることを目標として授業が展開された。授業の序盤は配布された Reading Sheet を元に、教科書の本文を読み始め、生徒はそれらをワークシートにまとめた。その後、グループの意見を聞きながら自分たちの把握できていなかったところを補完していった。ワークシートを用いて、キング牧師の行ったことへの感想を英語で対話した。最後は、話した内容を英語で書き、クラスメイトとの読み合いを重ね、英文を再考するという活動を行った。

参観者からは以下の意見や感想が出た。

・目標にしていた文数 生徒の力に応じて目標の文数を設定してもよいのでは

・課題設定の工夫　生徒の課題意識を高めるために、例えば BTS のスピーチを使う等 ・構成を示してもよかったのでは

・感想を書くために物語の流れをつかむ３点があったので、それを活用できたのでは

・写真とキーワードを使って日頃から話すことに慣れるようにするといい

中田有紀指導主事より

・単元計画で書くことを意図的に何度も行っている

・領域統合をして、書くために読むという目的がある

・あたたかい生徒とのやり取り や困っている子への支援の在り方

２年１組　英語科学習指導案

日　時　　令和５年 10 月 25 日（水）第５限
場　所　　２年１組教室
指導者　　松村　賢一、Andrea King

１　単元名　　Lesson 5　Things to Do in Japan　(NEW CROWN English Series 2)
２　単元の目標
　冬休みに日本を訪れるALTの家族におすすめの旅行プランを提案するために、歓迎会のリクエストを伝えるメールや観光客の感想を読み、旅行中の体験活動等について事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

３　単元の評価規準（書くことの評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
･形容詞や副詞を用いた比較表現の文構造の特徴やきまりを理解している。 ･学校行事や歓迎会の出し物などについて､比較表現などを用いて書く技能を身に付けている。	ALTの家族におすすめの旅行プランを提案するために､旅行中の体験活動等について事実や自分の考えを整理し､簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	ALTの家族におすすめの旅行プランを提案するために、旅行や体験活動等について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

４　指導に当たって
（１）教材観
　本単元の最初には日本で体験できる様々な活動に取り組む人たちの写真が掲載されている。また、小単元内にはニュージーランドの情報や人気のある教科、学校行事、外交人観光客に人気のある活動などがそれぞれ比較される形で紹介されており、比較表現を理解するのに適している。リーディングパートでは日本を訪れる高校生の要望がメール形式で記されており、要点をまとめて自分の考えを表現するのにふさわしい教材となっている。単元の終末には人気のあるものを調べて書く課題が設定されており、理由や具体を添えてまとまりのある文章を書くことに適している。

（２）生徒観
　形容詞や副詞の意味を理解している生徒は多いものの、特に副詞を英文の中に入れて表現することに難しさを訴える生徒もいる。理由や具体を含めて自分の考えを書くことに慣れてきている生徒が増えてきてはいるが、モデルが示されないと書き出せない生徒もいる。また、運用できる文構造も多くなく、ワンパターンになったり、同じ表現の繰り返しになったりすることもある。英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、事実や自分の考え、気持ちなどを表現することができるようになってきている生徒が増えてきてはいるものの、相手意識をもってまとまった英文を書くことができる生徒は少ない。

（３）指導観
　本単元では、書くことに重点を置いて指導する。単元末に「冬休みに日本を訪れるALTの家族に向けておすすめの旅行プランについて書く」という課題を設定する。このゴールを達成するために、単元を通して旅行先やそこでの体験活動について説明し合う言語活動を行う。その言語活動の中に比較表現が含まれた英文を意図的に取り入れ、言語使用の中で比較表現についての気付きが生まれ、習熟が進むようにしたい。また相手意識をもった英文が書けるようにするためにも、ALTの家族の旅行中の希望が何であるのかにも意識が向くようにしたい。
　本時では、人気の学校行事や給食についてのアンケート結果が示されたグラフの内容を説明し合う活動を中心に授業を展開していく。比較対象となる語の位置が逆になったり、最上級を表す語が抜け落ちてしまったりすることが予想されるが、ペア活動や中間指導を取り入れながら生徒自身が間違いに気付いたり、モデルとなる英文に触れたりする活動を行う。相手により分かりやすく伝えるために自分の考えやその根拠となる事実や理由を踏まえて、まとまりのある英文を書く活動を段階的に行っていく。

6　指導と評価の計画（観点の○は記録に残す評価。総時数10時間）

時間	ねらい（■）・主な言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1 2	■単元の目標を理解するとともに、国や都市の特徴を説明する。 ①単元の目標を理解する。 ②国や都市についてペアで伝え合う。				
	■ニュージーランドの特徴について説明する。 ①教科書の内容理解を通して比較表現の使われ方を理解する。 ②ニュージーランドの都市の面積について聞いて理解する。				
3 4	■ ①教科書の内容理解を通して more,most を伴う比較表現の使われ方を理解する。 ②本文の内容をキーワードをもとに伝え合う。				・本時以降、帯活動として５～10 分程度、比較や最上級の文構造を用いて、旅行や体験活動を紹介し合う活動などを行い、継続的に表現する力を育成していく。
	■形容詞を用いた比較表現（長い語）の特徴やきまりを理解して、教科や給食について書いている。 ①好きな教科や給食についてペアで話し、わかったことを書く。				
5 6	■副詞や同格の比較表現の英文の意味を理解する。 ①教科書の内容理解を通して副詞や同格の比較表限の使われ方を理解する。 ②グラフの内容をキーワードをもとに説明する英文を書く。				
	■副詞や同格の比較表現の特徴やきまりを理解して、学校行事や教科等について書いている。 ①学校行事や好きな食べ物等のアンケート結果についてペアで話し、わかったことや自分の考えを書く。				
7 8	■歓迎会の出し物について書かれたメールを読み内容を理解する。 ①QAやTFで内容理解を行う。 ②メールの内容について、理由を含めて意見を書く。				
	■メールの詳細を読み、内容を理解する。 ①前時の復習を行う。 ②QAやTFで詳細の理解を行う。 ③ALTからの課題を理解する。				
9 １０	■ALTの家族におすすめの旅行プランを提案する。 ①マッピングをもとにペアで交流する。 ②交流したことをもとに事実と考えを含めた英文で書く。	○	○	○	
	■英文をより良いものに仕上げる。 ①クラスメイトの英文を読んだり、伝え合ったりして、より良い旅行プランにするために英文を推敲する。	○	○	○	
後日	ペーパーテスト	○	○		

7　本時の学習　　（第６時）

（１）小単元名　　GET Part 3

（２）本時のねらい

・学校行事や好きな食べ物等のアンケート結果を示したグラフの内容や自分の考えを、比較表現等を用いて書くことができる。【知識及び技能】

（３）準備・資料等

ワークシート、指導者用タブレット端末

（4） 本時の展開

<table>
<tr><th>配時</th><th>学習活動（・）と
教師の働きかけ（●）</th><th>生徒の反応（・）</th></tr>
<tr><td>7分</td><td>・本時の課題を聞く。
●できる限り日本語を介さずに本時の課題が理解できるように、イラストや写真を使用する(JTE)
・ALTからのメッセージを聞く。
I have homework to do. I have to make a report on junior high school students in Japan. Can you teach me popular things among Japanese junior high school students? For example, I want to know popular subjects, school events, and school lunch. Please tell me about them and help me with my homework.

●ペアでALTの話の内容を確認させる。(JTE)</td><td>・ホームワーク？と言っていた。何について書く宿題かな？
・ヘルプだから助けてほしいのかな？
・日本で人気の教科や行事、給食を知りたいみたいだ。</td></tr>
<tr><td>33分</td><td colspan="2">学習課題「学校行事や好きな食べ物などのアンケート結果とそれについての自分の考えを話し、その内容を書こう」</td></tr>
<tr><td></td><td>●事前にとっておいたアンケート結果を提示する。本時の流れとゴールを生徒に伝えて見通しをもたせる。(JTE)

●アンケート結果に関するinteractionを行う。(JTE,ALT)
・ペアで、アンケート結果を伝えたり、聞き取ったりする。生徒役はワークシートのキーワードを手がかりにアンケート結果を伝える。聞き手は聞き取った情報をメモする。

●１ペアを指名し、発話の内容を全体で共有させる。(JTE)
・１ペアがまずやり取りを行う。
・指名されたペアがどのように表現していたか確認する。</td><td>・話す方とメモする方に分かれるのか。
・メモをしながら聞くのは大変だ。

・moreとmostをしっかり言えていた。
・as asって何だったっけ
・自分の表現にも取り入れて話してみよう。</td></tr>
</table>

	●ペアを代えて数回行う。ペアを交代する際に生徒のやり取りの中から良い表現や間違いやすい箇所を共有する。既習事項や比較表現を用いている生徒、工夫が見られる生徒を意図的に紹介し中間評価を行う。(JTE,ALT) CからBへ到達するための支援 ・ペアやグループワークでクラスメイトの表現を参考にできるようにする。 ・ポイントを絞った中間評価を行い、参考となる英文に触れさせ、多く見られる間違いに気付けるようにする。 アンケート結果についてmoreやthe mostを用いて事実や自分の考えを書く技能を身に付けている。 （【知識・技能】、ワークシート） ・グループになり、グラフの内容を書く。 ●事実と自分の考えをふまえて書くよう気づかせる。(JTE) ＜目標を達成した生徒の姿＞ P.E. is the most popular subject in my class. Many students like playing volleyball or basketball. English is the second most popular. I think many students like to sing English songs, and Mr. Matsumura is a nice teacher. Art is as popular as social studies.	
10分	・本時の振り返りを記入する。 ●振り返りの視点を示す。(JTE) 視点「アンケート結果等を示したグラフについて説明するときに、気を付けたいことは（使えるようになった表現は）？」 ＜振り返り＞ ・単元の課題を解決するときにpopularなどは使いそうなので、活用したい。 ・長い語のときはmoreやthe mostを使うので、短い語を比較表現にするときと区別していきたい。	

８．板書計画

学習課題　＜学校行事や好きな食べ物などのアンケート結果とそれについての自分の考えを話し、その内容を書こう〉

Menu
① Homework…？
② アンケート結果（ペア）
③ まとめ作文（グループ）
④ 振り返り

Target Sentence
P.E. is the most popular subject in our school.
Agepan is as popular as curry and rice.

Goal
P.E. is the most popular subject in my class. Many students like playing volleyball or basketball. English is the second most popular. I think many students like to sing English songs, and Mr. Matsumura is a nice English teacher. Art is as popular as social studies.

３年３組　英語科学習指導案

日　時　　令和５年１０月２５日（水）第５限
場　所　　３年３組教室
指導者　　森田　久陽

１　単元名　　Lesson 5 I have a Dream (NEW CROWN English Series 3)
２　単元の目標
ALT が日本語教室で発表しなければならない世界に誇れる日本人について教えるために、事実や自分の考えを整理して、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

３　単元の評価規準（書くこと）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 関係代名詞that, which、whoや後置修飾を用いた文構造の特徴やきまりを理解している。 [技能] 世界に誇れる日本人について、関係代名詞that, which、whoや後置修飾などを用いて、書いている。	世界に誇れる日本人について日本語教室で発表するALTにその人物についての情報を教えるために、事実や自分の考えを整理して、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	世界に誇れる日本人について日本語教室で発表するALTにその人物についての情報を教えるために、事実や自分の考えを整理して、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

４　指導に当たって
（１）教材観
本単元は歴史上の有名な人物やその人物の偉業を扱っている。小単元ではアフリカ系アメリカ人や人権問題について触れており、リーディングパートでは、キング牧師の公民権運動や有名な演説について社会的知識とともに扱っている。単元末には、ALTの課題を手伝うために世界に誇れる日本人について書く学習課題があり、読み取った事実やそれに対する自分の考えを読み手に伝わるように分かりやすく書くことに適した単元である。

（２）生徒観
後置修飾や関係代名詞の用法や意味を理解している生徒は多いものの、それらを英文の中で正確に書くことに関しては課題が見られる。パワーポイントなどを用いて、人物の紹介をする活動には１・２年時から取り組んできているため、活動に対する抵抗感は少ない。
まとまりのある英文を書くことについては、まず自分の主になる考えや結論を書き、次にそれらをサポートする具体例や意見を書くこと、そして最後にもう一度自分の主になる考えを伝える構成にすることを指導してきており、少しずつ説得力のある文章を書く生徒が増えている。しかし、モデルとなる表現や文章を求めすぎる姿勢の生徒もおり、自分自身で、既習事項などの自分が使える表現を用いて書くことには課題が見られる。

（３）指導観
本単元では、書くことに重点を置き指導していく。単元末には「キング先生（ALT）の課題のために、世界に誇れる日本人について書いて伝えよう」という活動に取り組む。そのために、単元を通して、自分の会ってみたい人や尊敬する人について書く言語活動を継続的に取り組んでいく。関係代名詞は苦手意識を持つ人の多い文法事項の一つであると言われるが、これまでは複数の短文で紹介してきた内容を、関係代名詞を用いることで少ない文数でより詳細に紹介できるようになるという関係代名詞の有用性に気付かせたい。
本時では、花から借りたキング牧師について書かれた本を読み、その感想を書くことに取り組む。また、一度自分で書いた感想を友達に見てもらい、アドバイスを受けて再度書くことにも取り組み、読み手を意識させたり、より良い文章になるように再考させたりしていく。また、単元末の日本の偉人を紹介する文を書く際に参考となる表現等も合わせて指導していく。

6　指導と評価の計画（観点の○は記録に残す評価　総時数8時間）

時間	ねらい（■）・主な言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1 2	■単元の目標を理解するとともに、関係代名詞 that の用法を理解する。 ①単元の目標を理解する。 ②教科書の Dialogue を読み、関係代名詞の語順や使い方を理解する。				○のついていない時間は、記録に残す評価は行わないが、生徒の様子を見取り、指導に生かすことは行っていく。
	■関係代名詞の特徴や決まりを理解して、自分が尊敬する人を紹介する文を書いている。 ①前時の確認をする。 ②自分が尊敬する人物について調べ、理由や自分の考えをふまえて文章を書く。				
3 4	■後置修飾が用いられた英文を読み、用法や意味を理解する。 ①教科書の内容を通して、後置修飾の用法や意味を理解する。				
	■後置修飾の使い方や決まりを理解し、自分の会ってみたい人を紹介する英語を書いている。 ①前時の確認をする。 ②自分が会いたい人について、理由や自分の考えをふまえて文章を書く。				
5 6	■キング牧師について書かれた本を貸してくれた花に向けて、その本の内容について読み取ったことや感想を書く。 ①キング牧師の物語を読む。 ②グループで把握したことを確認する。 ③キング牧師についての感想を書く。				
	■キング牧師の物語を詳細に読み、内容を把握する。 ①前時の確認をする。 ②ＱＡや表で内容の理解を確認する。				
7 8	■世界に誇れる日本の偉人について調べ、紹介する文を書く。 ①キング先生が提案する日本の偉人の候補から自分が伝えたい人物を選び、その人に関する情報を把握する。 ②得た情報を文章にし、その人についての事実と自分がすごいと感じたことが伝わる英文を書く。				
	■世界に誇れる日本の偉人について紹介し、さらに良い文章にする。 ①前時に準備したものを基に、発表しあう。 ②他の生徒の発表も聞いて、より良くできる部分を見つけ、推敲する。	○	○	○	
後日	ペーパーテスト	○	○		

7　本時の学習　　（第５時）

（１）小単元名　　USE Read

（２）本時のねらい

・キング牧師について書かれた本を貸してくれた花に向けて、その本の内容について読み取ったことや感想を書くことができる。　【思考・判断・表現】

（３）準備・資料等

ワークシート、指導者用タブレット端末

（4） 本時の展開

時間(分)	学習活動（・）と教師の働きかけ（●）	生徒の反応（・）
2	・パワーポイントから本時の目的・場面・状況を想起し、見通しを持つ。	・本を貸してもらったのか、そしてそれを返す時に感想をつけて返すんだな。
１０	・本時のねらいを知る。 学習課題「キング牧師の本を貸してくれた花に、その本を読んだ感想を書こう」	
１０	・配布したReading Sheetをもとに、本文の内容を読む。 ・Reading Sheetを用いて、教科書本文を読み、読み取ったことをワークシートにまとめる。 ・個人で、読み取ったことをワークシートにまとめる。 ●グループになり、それぞれのまとめたことを確認させる。 ・個人では分からなかったところや、確認したいところを聞きあう。 ●理解が早い生徒は、グループのスローラーナーを助けるよう伝える。	・黒人の人が苦しんでいて、キング牧師が声をあげたという感じの話だったな。 ・この箇所についてどのようにまとめたのか注意して聞こう。 ・なるほど。まとめ方にも工夫が必要だ。
8	●全体でSTEP1～3の確認をする。 ・他のグループの意見も聞きながら、自分たちの把握できていなかったところを補完していく。	・差別にもあきらめずに闘った人なんだな。 ・非暴力的な方法で訴えたのはすごいな。
1 １０ 3	・ワークシートを用いて、キング牧師の行ったことや感想を話す。 ・話した内容をふまえて、花に向けての感想を書く。 ・感想を友だちに読んでもらい、わかりにくい点がないかを確認する。 CからBへ到達するための支援 ・グループや全体で書いた内容を確認することで、参考となる表現等をメモするよう促す。 ・個別に声かけをし、参考となる表現を教科書や既習のワークシートから探すよう促す。	・関係代名詞は使えそうだな。 ・そういう表現もあるのか。参考にしてみよう。
2	・友達からのアドバイス等をふまえて感想の内容を整理し、再度書く。 読み手に伝わるように、キング牧師について読み取った事実や自分の感想を書いている。 【思考・判断・表現】（ワークシート）	
	＜ねらいを達成した生徒の姿や言葉＞ **Thank you for lending me the book.** **I think he is a great person who everyone respects.** **He fought for justice in a peaceful way.** **I think many people are inspired by his speech.** **I learned the importance of his fight for justice.**	
4	●振り返りの視点を示す。 ・本時の振り返りを記入する。 視点「自分の感想を友達に読んでもらってどうだったか？」	・キング牧師のしたことをしっかり書けたな。 ・〇〇さんの書いた感想は良かったな。

８．板書計画

学習課題：花に向けて、キング牧師についての感想を書いて伝えよう

STEP1

（　　）年のアメリカでは、（　　）の人々…
（　　）や（　　）、（　　）が使えなかった

STEP3

・ノーベル平和賞をもらった
・殺された
・まだ闘いは続いている

STEP2

・バスボイコットをした
・不平等な法を変えるために頑張った
・バスのどこでも座れるようにした

STEP4(GOAL)

Thank you for lending me the book.
I think he is a great man who everyone respects.
He fought for justice in a peaceful way.
I think many people are inspired by his speech.
I learned the importance of his fight for justice.

県小中英研８地区研究発表会　令和７年度の東陸石川大会に向けて

報告者：研究委員長

吉田　基伸（白山市立笠間中学校）

1.　はじめに

令和７年度に開催予定の東海北陸公立学校英語教育研究会（石川大会）に向けて、県内の各地区の取り組みや研究内容の発表会が１１月２９日（水）にオンラインで開催された。昨年度の発表していただいた実践や研究内容の改善や継続した取り組みを確認できる機会となった。以下、現状や課題、成果について報告させていただきたい。

２．現状・課題・成果

新学習指導要領にあるように、英語の授業を行う際には「目的・場面・状況」をしっかりと設定して考えなければならない。では、石川県小中学校英語教育研究会の研究テーマである（「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」）とどのように照らし合わせることができるだろうか。このテーマに合う小テーマを各地区で設定し、研究を進めてもらっているが、改めて教室つまりは授業の中で、生徒が必要感持って学習に取り組める手立てを考えて行かなければならないと考える。今回の発表会を通して、昨年度からの各地区の進捗状況や研究の充実度、よりよい実践になるような改善を見ることができた。また、多くの地区でＩＣＴにも力を入れ活用する様子が見られた。

３．さいごに

「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」というテーマが一人歩きしないように、もう一度石川県全体で共通認識を深め、令和７年度東海北陸公立学校英語教育研究会（石川大会）に向け、各地区が互いに刺激し合い、各地区では研究内容の PDCA サイクルをもとにより一層進めていくことが必要である。

第４７回東海北陸公立学校英語教育研究会　富山大会

期　日　　令和５年８月８日（火）・９日（水）

会　場　　公立学校共済組合　パレブラン高志会館

大会テーマ　　コミュニケーション能力を養うにはどうのように指導したらよいか
―聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して―

主な日程

＜第１日目＞　・記念講演
演題
「学習指導要領の趣旨を踏まえた小中学校における外国語科の学習指導の改善・充実
～コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指すための小中連携の在り方～」
講師　国立教育政策研究所　教育課程研究センター　教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局　教育課程科
外国語教育推進室　教科調査官　　入之内　昌徳　氏

・研究発表
第１分科会「学び合い　～異学年合同授業を通して得られるもの～」
水野　愛美　教諭・仙名　あづさ　教諭（入善町立入善西中学校）

第２分科会「まねて学んで、『話せる・書ける』へ
～教科書本文をモデル文とした言語活動～」
内記　大地　教諭（富山市立奥田中学校）

第３分科会「指導と評価の一体化を目指した小矢部市の取組
～CAN-DO リストの活用を柱として～」
小矢部市中学校教育研究会　英語部会

＜第２日目＞　・分科会報告

・各県活動報告

・授業づくりへの提言
「思考力・判断力・表現力を高める言語活動・評価の工夫及び小中連携」
高岡市中学校教育研究会　英語部会　研究推進委員会

第４７回東海北陸公立学校英語教育研究会　富山大会　参加報告

白山市立笠間中学校
福田　　茜

＜第１日目　記念講演＞

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官、並びに文部科学省初等中等教育局教育課程科外国語教育推進室教科調査官である入之内昌徳氏が、「学習指導要領の趣旨を踏まえた小中学校における外国語科の学習指導の改善・充実　～コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指すための小中連携の在り方～」というテーマで記念講演を行った。

新学習指導要領全面実施の３年目を迎え、様々な効果が見られる一方で、課題も明確になってきている。そのことを踏まえ、以下の３点についてお話をされた。

（１）生徒の英語による言語活動の充実に向けて

・中学生の英語力については、１０年前の英語調査年度より着実に向上しているものの、CEFR A1 レベル（英検３級）相当以上を達成した中学３年生の割合は４９．２％で、第３期教育振興基本計画（～R４年度）の目標値５０％には未達である。

・「生徒の英語による言語活動時間が５０％以上の割合」の有意性が最も高いことがわかっている。

→「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の言語活動を中心に据えた授業づくりが大切である。

（２）「CAN-DO リスト形式」による学習到達目標の設定の目的について

・学習到達目標を設定する趣旨

①外国語能力向上のために、生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し、教員が生徒の指導と評価の改善に活用すること。

②学習到達目標を、言語を用いて「～することができる」という能力記述文の形で設定することにより、学習指導要領を踏まえた４技能を有機的に結び付け、総合的に育成する指導につなげること。

③教員と生徒が外国語学習の目標を共有すること。言語習得に必要な自律的学習者としての態度・姿勢が身に付くとともに、「言語を用いて～ができるようになった」という達成感による学習意欲のさらなる向上にもつながる。

・生徒の発達の段階と実情を踏まえ、学年ごとの目標を適切に定めることが必要

→生徒の実態の応じて不断の見直しを行うことが大切。

・単元ゴールイメージを明確にもち、「外国語を使って何ができるようになるか」という観点からの授業改善・充実が期待される。

（３）小中連携の推進に向けて

・指導計画の作成と内容の取り扱いについても小・中学校の接続を重視し、連携したカリキュラムや学習到達目標の設定が必要である。

・お互いの共通点や相違点を、学習指導要領解説の巻末に示されている目標、言語材料、言語活動を参照しながら、小中連携カリキュラム作成を推進するための研修会等を、設置者である自治体担当者や管理職等の協力のもとで進めていく必要がある。

上記の３点についてお話をされた上で、入之内氏は、「生徒の可能性を引き出し伸ばす外国語科教育の実現」について語られた。生徒には難しいのではないかと考え、言語材料について理解したり練習したりすることが目的となっているような、単なる繰り返し活動のみを行うのではなく、互いの考えや気持ちを伝え合うための言語活動に取り組ませることが不可欠である。教師が決めた枠内で活動させているだけでは見ることのできない、教師の想像を超えた頑張りや、意外な視点で表現しようとする姿に出会えるかもしれない。「すぐにできるようにならない」「繰り返し取り組ませながら徐々に力を身に付けさせていく」という指導の転換が大切である。

＜第１日目　研究発表＞

３つの分科会に分かれて研究発表が行われた。第２分科会のテーマは、「まねて学んで、『話せる・書ける』へ　～教科書本文をモデルとした言語活動～」であった。研究実践として紹介されたのは、単元を通した教科書本文をモデルとした言語活動である。NEW HORIZON English Cours2(東京書籍)の Unit 6 Research Your Topic において、「クラスメイトに質問をし、その結果をグラフ等にまとめて、調査した結果と考察を詳しく発表することができる」という単元末目標を設定されていた。インタビュー及び発表の場面で、教科書本文をもとに生徒は言語活動を行った。

成果として挙げられたのは、生徒が本文の文章構成や流れの型を教科書本文から学び、自分の言いたいことに置き換えることができたことである。スライドにインタビュー結果を表すグラフやイラスト等を入れ、それをもとに約８割の生徒が６０語以上の内容を思い出しながら発表することができた。単元末活動に入る前に、教科書本文をモデルとして、同じ質問や応答、説明を繰り返していたことで、型に慣れ、英語でのやりとりをスムーズに行えたと感じている生徒が多かったそうだ。

一方で、教科書本文の内容や使われている言語材料への理解が十分ではない生徒は、作成した原稿を理解しきれていないため、円滑に発表することが困難であった。教科書の内容理解を十分に行ったうえで、言語活動につなげていくことが課題として挙げられていた。

＜第２日目　授業づくりへの提言＞

２日目は、高岡市中学校教育研究会英語部会の発表が行われた。「思考力・判断力・表現力を高める言語活動・評価の工夫及び小中連携」というテーマであった。コミュニケーション能力の基礎の育成を目指し、１学期に研究テーマを決定し、代表者による研究授業の実施、部会全員による実践事例を集めることなどの方法で研究を進めている。新学習指導要領の施行にともない、「言語活動と評価の工夫」「小中の接続・連携」についての研修として取り組んだ実践が紹介された。

・ぺらぺら英会話

既習の言語材料を用いたQ&A活動。知識の定着だけでなく、テーマや状況に即して即興的に話す機会を継続的に設定し、思考力・判断力・表現力を高めることを狙いとした。実施後に生徒は自己評価を行った。「声」「目線」「創造性」の観点それぞれを３段階で評価した。生徒が自分の課題を発見できるよう工夫した。活動を通して、知っている表現でやり取りしようと工夫する生徒や、自身の課題に向き合おうとする生徒の姿が見られた。

・小中連携における取組

高岡市では、新学習指導要領への移行期にあたる２０１８年度からの３年間、「外国語活動における校区の小学校への乗り入れ事業」を行っていた。中学校教員が校区の小学校に出向き、小学校教員とチーム・ティーチングをしながら外国語活動の授業を担当した。この他にも研修会を行うなどし、悩みを相談し合ったり、指導のノウハウ等を学びあったりする機会を多く設けていた。

＜まとめ＞

コミュニケーション能力を養うための指導方法を研究する中で、基礎基本を大切にしながらも、学んだことや身につけたことを言語活動へつなげていくことを重視した実践を、それぞれの地区で行っておられた。また、中１ギャップを生徒に感じさせず、生徒が意欲的かつ安心して英語学習に取り組めるための小中連携が熱心に行われていた。令和２年度から小中学校英語教育研究会へと組織を発展させた石川県としても、「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」という研究テーマに小学校と中学校が連携して迫っていくために、学ぶべきところの多い研究大会であった。

令和５年度　郡市活動報告

加賀市

報告者：加賀市立錦城中学校
小川　健生

■　令和５年度郡市研究テーマ
意欲をもって学びに向かう英語教育―自分の考えや思いを積極的に伝え合うことを通して―

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
５月１２日（金）	第１回研修会 時　間：１５：３０～１６：４０ 場　所：片山津中学校 ・組織会、今年度の研究テーマ決定 ・小中連携の指針決め（研究授業） ・加賀市英語科共有ドライブについて
７月２５日（火）	第２回研修会 時　間：１３：３０～１６：００ 場　所：山中中学校 ・研究主題や自由進度学習についての現状報告 ・8 地区研究発表中間報告（山中中学校　徳田　裕也教諭）、整理会
１１月３日（金）	第７５回　南加賀地区中学校英語暗唱大会
１１月７日（火）	第３回研修会 時　間：１３：４０～１６：４０ 場　所：山代中学校 ・研究授業（山代中学校　静岡　義人教諭）、整理会 単元：New Horizon2 Unit6 Research Your Topic ・8 地区研究発表最終報告（山中中学校　徳田　裕也教諭）、整理会 ・今年度の反省、来年度の計画

■　成果と課題

加賀市では前年度に引き続き、「意欲をもって学びに向かう英語教育―自分の考えや思いを積極的に伝え合うことを通して―」を研究主題とした。さらに、加賀市の学校教育ビジョンである“Be the Player”、「子どもが主役の授業」を目指し、個別最適な学び・自由進度学習にも取り組でいこうとする学校も見られた。

研修会では、小中連携の観点から、今後は小学校でも研究授業を行っていく方針が決定した。また、支援を要する生徒の意欲的な授業参加の手立てや動機づけ、支援方法を共有したり、自由進度学習の実践に向けた現状と課題を伝え合った。手立てや動機づけについては、デジタル教科書で生徒が自ら学ぶことのできる材料を提供したり、クイズアプリ「Kahoot」や「Quizlet」を用いて生徒の興味関心を引き出そうとするなど、ICT の観点からの工夫を共有することができた。一方で、英語科で自由進度学習をどのように取り入れていくかがわからない、個別最適な学びとして授業の中で生徒にゆだねる場面を設定したものの、生徒同士の人間関係により活動がうまくいかなかったグループもあった、という課題も見られた。

第３回の研修会では、山代中静岡教諭による研究授業を行った。比較級を学ぶ前に、現時点での既習事項を用いての ICT を活用したインタビュー活動で、意欲的に取り組む生徒の姿が見られた。授業後の整理会では単元のゴールは共有できたものの、本時のゴールが見えづらかったこと、ALT のモデル文をさらに活用することで比較級への必要感を持たせることなどが課題としてあがった。

（1）本時のねらい クラスメイトにインタビューして、結果を英語で発表することができる。

【思考・判断・表現】

（2）準備 タブレット

（3）本時の展開（学習活動と評価）

配分	主な学習活動 〇発問や指示 ・予想される生徒の思考や発言	・留意点 ◆評価【観点】（評価方法）☆支援
5分	1 Review, Share the Unit Goals 1年生の「好きな教科ランキング」を発表する。 T:Today, I want to introduce you about favorite subject of 1stgraders. Today, I want you to interview to your classmates and do presentation.	・生徒とインタラクションを通して、内容理解することで、授業に取り組む意欲や内容に対して興味を持つ。
≪本時の課題　クラスメイトにインタビューして、結果を報告しよう≫		
10分 10分 5分 10分	2 Interview クラスメイトにインタビューする。 T:You can walk around the classroom and ask your classmate “What〇〇 do you like?” 3 発表練習① ペアでどのような表現を使って、結果を報告したほうがいいかを 考える。 グラフを見せながら、インタビュー結果を報告する。 S:No.1 is 〇〇. No.2 is 〇〇 No.3 is 〇〇. S:〇〇 of my classmates like 〇〇. Next is 〇〇. 4 Inter-Instruction 練習中に気づいたことや、良かった生徒の発表を取り上げて、どこが良かったかを共有する。 S:事実だけでなんか面白くないな。どうしたら内容が深まるかな？ T:〇〇さんの発表がすごく良かったから、みんなで見てみよう。 S:「何を聞いたか」「このグラフを見て！」とかも言っている！ 5 発表練習② 中間指導を受けて、動画を撮影する。	☆グラフや数字を見せながら行い、視覚的情報を与えて、内容を理解する。 ・単元ゴールを共有し、見通しを持ちながら授業に取り組ませる。 ☆机間指導を行い、英語で質問したり、答えたりするようにする。 ・既習事項などを活用して、英語で結果を伝える。 ☆表現が難しい場合は、上手に表現している生徒の表現を真似るようにする。
≪まとめ≫ ・My question is 〇〇. Please look at this graph. ・〇〇 of my classmates like 〇〇 and 〇〇 of my classmates like 〇〇. ・No1 is 〇〇 No2 is 〇〇 No3 is 〇〇		◆クラスメイトにインタビューして、結果を英語で発表することができる。(動画) 【思考・判断・表現】
	6 Reflection 教師の音声と自分の音声を聞き比べて、違いや改善点などについて振り返る。	単元へのゴールを意識させる。

令和５年度小松市活動報告

小松市

報告者：小松立安宅中学校
石田　ゆかり

■　令和５年度郡市研究テーマ
豊富な英語のやりとりにあふれた教室　～小中連携を大切にして～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
５月１０日（水）	第１回研修会 ・組織づくりと今年度の研修計画について ・校種ごとに分かれての情報交換
６月　７日（水）	第２回研修会 ・公開授業（国府小学校　　西野　可祝教諭） ・授業整理会 ・８地区研究発表に向けて
７月２６日（水）	第３回研修会 ・講演：「英語リーディングの初歩的な指導：児童・生徒が「読めた」喜びを実感するために」筑波大学　　卯城　祐司教授 ・模擬授業（芦城中学校　　松村　賢一教諭、森田　久陽教諭） ・指導案検討
１０月２５日（水）	第４回研修会 ・研究授業（芦城中学校　　松村　賢一教諭、森田　久陽教諭） ・授業協議会
１月１７日（水）	第５回研修会 ・８地区研究会発表（矢田野小学校　　坂上　智子教諭） ・来年度の計画 ・小中別実践交流会 小学校：光村図書の方による教科書説明 中学校：情報交流

■　成果と課題

・筑波大学の卯城教授による講演では小中高連携を成功させるための留意点を示していただいた。その中で「小学校英語と中高英語科の目標を互いに理解する」、また、「それぞれの校種間のバトンゾーンの意義を理解する」という点について、これからの小中連携の中で実践していきたい。
・前年度の申し送りから、第２回と第４回に研究授業を行うことができたので、早い段階で研究授業を参考にして各自が実践することができた。
・8 地区研究発表に向けて各校区で小中打ち合わせを行ったことで、校区内での小中連携を図ることができ、2 学期からの実践につなげることができた。
・来年度も引き続き小学校と中学校の研究授業を行うことで、小・中お互いの実践に活かしていくことが望ましい。
・小学校で「できない子」が中学校で置いてきぼりにならないようにする手立てについて、小中で連携して具体的に協議していく必要がある。

第５学年１組　外国語科学習指導案

令和５年　６月７日（水）５限
場　所：　国府っ子ルームⅠ
授業者：ＴⅠ　JTE 西野　可祝
Ｔ２　ES　和田　広美

１　単元名　**What do you want to study？**
New Horizon Elementary５ Unit３
～夢に近づく時間割を紹介しよう～

２　単元の目標

お互いのことをよく知り合うために,学びたい教科や就きたい職業について具体的な情報を聞いたり紹介したりすることができる。また,アルファベットの活字体の大文字･小文字を書くことができる。
※なお, 本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが, 本単元内で記録に残す評価は行わない。

３　単元の領域別目標

（1）聞くこと

ア　ゆっくりはっきりと話されれば,自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。

(2) 話すこと【発表】

イ　自分のことについて, 伝えようとする内容を整理した上で簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

４　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 What do you want to study? I want to study ～. What do you want to be? I want to be a/an ～. 等の表現について理解している。 〈技能〉 学びたい教科や就きたい職業などの語句や基本的な表現を聞き取る技能を身に付けている。	相手のことをよく知るために,学びたい教科や就きたい職業について聞き取っている。	相手のことをよく知るために,学びたい教科や就きたい職業について聞き取ろうとしている。
話すこと【発表】	〈知識〉 What do you want to study? I want to study ～. What do you want to be? I want to be a/an ～. 等の表現について理解している。 〈技能〉 学びたい教科や就きたい職業などの簡単な語句や基本的な表現を用いて話す技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために,学びたい教科や就きたい職業について話している。	自分のことをよく知ってもらうために,学びたい教科や就きたい職業について話そうとしている。

5　**単元計画・評価計画**（総時数　８時間　本時　1/８時）

	目標◆　学習内容○ 身に付けさせたい表現	評価 知技	思判表	態度	○評価規準（評価方法）
1 本 時	◆学びたい教科や就きたい職業についての発表を聞いて，おおよその内容を理解することができる。				
	○Small Talk 教師の発表モデルを聞き，単元のゴールをつかむ。 ○教科のいい方を知る（word link 教科） ○Activity 学びたい教科について友達とペアで尋ね合う ○Let's Chant① ○Reflection What do you want to study? I want to study P.E.	本時では，目標に向けて指導を行うが記録に残す評価はしない。			
2	◆学びたい教科や就きたい職業についてのやり取りを聞いて，おおよその内容を理解することができる。また，アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。				
	○自学タイム ○Sounds and Letters ○Let's Chant①? ○Let's Try② 学びたい教科について友達とペアで尋ね合う。 ○Let's Watch and Think ○Do you know? ○Reflection	本時では，目標に向けて指導を行うが記録に残す評価はしない。 What do you want to study? I want to study P.E.			
3	◆就きたい職業などについて伝え合うことができる。また，アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。				
	○Sounds and Letter ○Let's Listen① ○職業のいい方を知る（word link 職業） 自学タイム ○ことば探検 ○Enjoy communication 就きたい職業について，友だちとペアで尋ね合う。 ○Let's Chant② ○Reflection	本時では，目標に向けて指導を行うが記録に残す評価はしない。 What do you want to be? I want to be a pro basketball player.			
4	◆学びたい教科や就きたい職業について伝え合うことができる。また，アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。				
	○自学タイム ○Let's Chant② ○□□先生の話を聞こう ○Enjoy communication 友達と学びたい教科や就きたい職業などについて伝え合う。 ○Sounds and Letters ○Reflection	聞			○学びたい教科や就きたい職業などの短い話を聞いて具体的な情報を聞き取っている。 （行動観察・ワークシート記述分析）
		本時では，話すこと（発表）についての記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても，教師が児童の学習状況を見取り，指導に生かす。			

5 6	◆お互いのことをよく知り合うために学びたい教科や就きたい職業などの短い話を聞いて具体的な情報を聞き取ることができる。また,アルファベットの活字体の小文字を書くことができる				
	○自学タイム ○Sounds and Letters ○ES の先生に尋ねよう ○時間割を作成しよう。 【Enjoy Communication】p30 　友達に学びたい教科や就きたい職業について紹介しよう。 ○発表の練習をしよう ○Reflection		聞	聞	○相手のことをよく知るために,学びたい教科や就きたい職業について聞き取っている。【思考・判断・表現】 （行動観察・ワークシート記述分析）
		本時では,話すこと（発表）についての記録に残す評価は行わないが,目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても,教師が児童の学習状況を見取り,指導に生かす。			
7 8	◆お互いのことをよく知り合うために,学びたい教科や就きたい職業について紹介し合うことができる。				
	○Enjoy Communication P31 　友達に学びたい教科や就きたい職業について紹介しよう S1; Hello.This is my schedule. 　I have Japanese, math, English, English, P.E. and P.E. 　I want to study P.E. 　I want to be a　basketball player. 　Thank you for listening. Ss; Good luck! ○日本のすてき	話	話	話	○学びたい教科や就きたい職業について話している。 【知識・理解・技能】（行動観察） ○自分のことをよく知ってもらうために,学びたい教科や就きたい職業について話している。 【思考・判断・表現】（行動観察） ○自分のことをよく知ってもらうために学びたい教科やすきたい職業について話そうとしている。 【主体的な学習に取り組む態度】 （行動観察）

※なお,話すこと【発表】の評価については,単元の活動中に評価は行うが,学期末に ES と各児童との1対1のパフォーマンステストを行い,条件を一定にそろえて再度見取り総合的に判断する。

6 本時の学習 （1／8時）

（1） ねらい

・ 学びたい教科や就きたい職業についての発表を聞いて,おおよその内容を理解することができる。 「聞く」【知識,技能】

（2） 準備

デジタル教科書 英絵カード(教科) ワークシート 振り返り用紙

（3）展開

過程 配時	学習内容	・指導上の留意点 ○評価（方法）
5分 展開 35分	1 Greeting 2 本時の課題を確認する 〈単元のゴールを知ろう〉 3 Small Talk 教師(JTE)の発表モデルを聞き, 単元のゴールをつかむ。 Hello! I am 11 years old. I like basketball very much. I want to be a world basketball player.（イラストを見せる） This is my future dream. （時間割を見せながら）This is my schedule for my future dream. I have Japanese, math, English, English, P.E. and P.E. I want to study English and P.E. What do you want to be? What do you want to study? Thank you for listening. What did you listen? What do I want to be? What sport do I like? What do I want to study? 単元のゴール：夢（就きたい職業）に近づく時間割を紹介しよう 4 Activity **Let's talk** ・ JTE→Ss ・ S1→S2 …… ・ pair work What do you want to study? I want to study English. ・シェアリングをする（中間評価） ・ペアを変えて伝え合う 5 Let's Chant ② 6 Reflection ・単元のゴールが分かったので，それに向かってがんばりたい。 ・友達の勉強したい科目が自分の思っていたことと違ってびっくりした。 ・友達の勉強したい教科を聞いてなるほどと思った。 7 Greeting	・JTE の話を聞いて,単元のゴールが夢に近づくための時間割を作ることを知る。 ・JTE とのインタラクションで理解させる。 ・smile, gesture ,eye contact , Clear voice, reaction にも気を付けさせる。 ・ 良いモデルのやり取りを参考にさせたり, 困っていることを共有したりする。
ふりかえる 5分		

（4）板書計画

Today's Target 〈単元のゴールを知ろう〉

Unit's Target 〈夢に近づく時間割を作ろう〉

What do you want to study?

I want to study

1 Greeting
2 Small Talk
3 Activity
4 Let's Chant
5 Reflecton
6 Greeting

英絵教科カード

令和５年度　郡市活動報告

能美市（郡）

報告者：能美市立辰口中学校
北川　千尋

■　令和５年度郡市研究テーマ
「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月２６日（水）	・組織作り ・研究テーマ決定，年間活動計画の確認 「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」 ・校区別小中研修会
８月１日（火）	講演：「豊富なやり取りにあふれた教室」を実現するためのヒント 講師：金沢学院大学准教授　村松 麻里 氏
１１ 月１５日（水）	・研究授業　粟生小学校　竹多 郁乃 教諭 【単元名】 「 Unit 7　Welcome to Japan ～JAIST 留学生に日本の四季や文化を伝えよう～」 ・授業整理会 ※川北地区小中学校の教職員参加
２月２１日(水)	年度総括と次年度年間計画の作成

■　成果と課題

今年度は，「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」という研究テーマのもと，能美市内の各小中学校の会員で実践を共有し，授業改善を推進した。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための効果的な ICT 活用についても，研修会の際に Chromebook を持参し，実践を共有した。また，能美市内の教員で参加している Google Classroom などを用いて，ワークシート等も共有している。8 月には，金沢学院大学准教授 村松 麻里氏を招聘し，英語の歌あそびや絵本，ゲーム等を通して，楽しく英語に触れる方法や指導のポイントを学んだ。２学期からすぐに授業に取り入れることができる言語活動を知ることができた。11 月には，粟生小学校 竹多 郁乃教諭による研究授業を参観し，授業整理会を行った。研究テーマの達成と今後の授業の改善策を協議するとともに，小・中学校教員が学習指導要領に記されたそれぞれの目標と学習内容について確認するよい機会となった。

今後も能美市（郡）学校教育研究会 外国語・英語部会での学びを活かして，各教員が目指す授業に向けて主体的・協働的に授業改善を続けていく。

５年１組　外国語科学習指導案

令和５年１１月１５日（水）５限
指導者：竹多　郁乃
麦田　小百希（EAA）
場所：５年１組教室（粟生小）

１．単元名　Unit7　Welcome to Japan.　～JAIST 留学生に日本の四季や文化を伝えよう～
２．単元の目標
JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらおうという活動を通して，日本や外国の四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取ったり，日本の四季や文化などを伝えようとする内容を整理することで，簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを話したりすることができる。
※　なお，本単元における「読むこと」および「書くこと」については，目標に向けて指導は行うが，本単元内で記録に残す評価は行わない。
３．単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 季節や年中行事の言い方や，We have ～./ You can ～.等の表現について理解している。 〈技能〉 季節や年中行事などの語句や基本的な表現を聞き取る技能を身に付けている。	JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取っている。	JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと〔発表〕	〈知識〉 季節や年中行事の言い方や，We have ～./ You can ～.等の表現について理解している。 〈技能〉 日本の四季や文化などについて，季節や年中行事などの語句や We have ～./ You can ～.等の表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，日本の四季や文化などについて，自分の考えや気持ちなどを話している。	JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，日本の四季や文化などについて，自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。

４．本時の学習（4／9 時間）
（１）本時のねらい
・JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取ることができる。【思考力，判断力，表現力等】
・JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取ろうとする。【学びに向かう力，人間性等】
（２）評価規準
・JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取っている。【思考・判断・表現】
・JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取ろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
（３）準備
・電子黒板，デジタル教科書（PC），Chromebook，教科書
（４）学習展開

	配時	主な学習活動 T　教師の発問など　　C　予想される児童の言動	・指導上の留意点　☆評価【評価方法】◎支援 対話型授業をめざした学習環境デザイン
導入	5	**1. Greeting** T: How is the weather? T: What's the date today? T: What day is it today?	・学習への意欲を高め，外国語の授業が始まることを意識づけるために，毎回の授業で行っている挨拶をする。 ・列ごとに EAA からの挨拶に関わる質問に答える機会を設けることで，だれがどの程度答えられるかの習熟度を見取るようにする。
	2	**2. Let's Sing「Yokoso!」** T: 歌えるところだけでも良いよ。	・児童が，すべて歌わなければいけないというプレッシャーを感じないように，声かけをする。
	5	**3. 前時を Chromebook でふり返る。** T: 今の自分は，どのくらい JAIST 留学生に日本の良さが伝わっているかな？ C: まったく伝わらないと思う。 C: 少しだけなら伝わるよ。	・JAIST 留学生という相手意識，日本の良さを伝えるという目的意識をもった学習ができるように，Chromebook(オクリンク)で撮影した動画を個人でふり返る。
		＜　どんなことを紹介すると良いかな　＞	

展開	8	**4. 内容・表現のモデルとして会話を聞く。** **（教科書 Let's Try3）** We have ***hanami*** in spring. You can eat ***hanami-bento***. It's nice. T: どんな内容を話していたかな？ C: 春に花見があるって言っていたよ。 C: 花見弁当って聞こえたよ。 C: ナイスって言っていたよ。 T: 次は、どんな表現を使っているか、英語をよく聞いてね。 C: It's nice.って言っていた！ C: You can eat～.も聞こえたよ。 C: It's ●●.が言えるようになればいいね！	・内容，表現のモデルとして会話を聞く。 ◎1 回目はどんな内容を話しているか，もう一度聞きたいのはどれかを意識して聞くように伝える。 ・英語で話の内容を聞くことに慣れたり，英語で理解するという意識を持ったりできるように，「No speaking.　No comment.」等と声かけをする。 ◎内容を全体で確認した後、特に表現に着目して 2 回目は聞くように伝える。 ・聞こえた表現を頭の中でシャドーイングし，イントネーション等が理解できるようになるために，「No speaking.　No comment.」等と声かけをする。 **☆JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取ろうとしている。　【行動観察】**
	5	**5. 様子を表す語の練習をする。（PD: p.29）**	・必要に応じて語句の意味を確認することで，ただリピートするだけの練習ではなく，意味を理解しながら練習できるようにする。
	3	**6. 紹介する内容を再構築する。（個人）** T: 紹介する内容をパワーアップさせよう。 C: We have *tanabata* in summer. You can see many stars. It's beautiful.	◎EAA と分担し，Let's Try3 をもとに，紹介する内容が膨らんでいるかを机間支援で確認をする。内容が思い浮かばずに困っている児童には，It's ●●.等の表現につながるような問いかけや声かけをする。
	9	**7. 考えを交流し合う。（ペア）** T: ペアで話し合うと，もっと良くなりそう？ C: *tanabata* では，短冊を書くよ。 C: We write *tanzaku*.とか，どうかな？	**自己決定をうながす学習環境デザイン** 意思表示を可視化することで，どこがより良くできそうかの相談ができるようにする。また，可視化することにより，話し手としても聞き手としても責任をもてるようにする。（意思表示カード） 聞き手 どのポイントで話を聞くかという意識を持つことで，話し合いに参加することができ，聞き手としての責任を持てるようにする。 話し手 聞き手からの意思表示があることで，ポイントをしぼった話し合いをすることができ，紹介する内容をより良いものにしやすくする。
終末	8	**8. 紹介する内容を再構築する。（個人）** C: We have *tanabata* in summer. You can see many stars. We write *tanzaku*. It's beautiful.	**共感的にかかわる学習環境デザイン** 他者から得たアドバイスや他者の意見をもとに，自分の考えをまとめる時間を設ける。 **☆JAIST 留学生に日本文化についてよく知ってもらうために，四季や文化などについての具体的で簡単な情報を聞き取っている。【行動観察，ふり返り記述分析】**
	課外	**9. ふり返り** C: It's ●●.を使うと，日本の良さがより伝わると思いました。	・クラスルームの課題配信を使って，教師にふり返りを送信するよう声かけしたり，連絡帳で伝えたりする。

視点①：Let's Try 3 の内容や表現から学び(気づき)，紹介する内容を再構築していたか。（気づきによる学び）

視点②：ペアでの対話を通して，内容や表現に変化は見られたか。（対話による変化）

令和５年度　郡市活動報告

白山市

報告者：白山市立北星中学校
熊谷　卓人

■　令和５年度郡市研究テーマ

『外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成』
～小・中学校の相互理解と連携の推進を目指して～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
６月　７日（水）	第１回研修会 講義「CAN-DO リストの効果的な活用について」 講師　白山市教育委員会　手取屋　直枝　指導主事
８月１０日（木）	第２回研修会 講義「子ども主体の授業づくり」 講師　金沢教育事務所　上野　郁子　指導主事
１０月１１日（水）	第３回研修会 研究授業（中学校２年　外国語）及びグループ協議 研究授業 Unit 5 Universal Design New Horizon English Course 2 授業者　白山市立笠間中学校　吉田 基伸　　教諭 指導・助言　　白山市教員委員会　手取屋　直枝　指導主事

■　成果と課題

成果

白山市では全３回の研修会と研究授業で<u>小中の連携の重要性</u>と<u>単元ゴール達成のための授業設計</u>について新たな可能性を見いだすことができた。

課題

研修会等の振り返りの中には，「生徒に委ねることができていない」や「なかなか生徒の試行錯誤の時間をまてない」という声もあった。今後，現状の授業のあり方を見つめ直し，改善のための方策を郡市内，校内で進めていくことが好ましい。

また，昨年度からのつながりという面でとらえると，ICT の活用についての言及が少なかった。決して ICT 活用のための授業になってはいけないが，たくさんの先生が集まる協議の中でその可能性を模索していけるとよい。

■　白山市学校教育研究　第３回研修会資料

第２学年　英語科学習指導案　令和５年１０月１１日（水）第５限　指導者　吉田基伸

単元名　Unit5 Universal Design (New Horizon English Course2)

（１）本時のねらい

ユニバーサルデザインが取り入れられている箇所（視点）の中で自分が伝えたいものを選び、その良さを説明することができる。　【思考力、判断力、表現力等】

（２）展開（略案）

過程(時)	学習内容（○） 予想される生徒の思考（・）	指導（○）評価（●）タブレット活用場面(T) C→B への手立て（※）
㊀ (10)	１．本時の課題をつかむ ○Scene1 の復習をする。 ○Scene2 の場面を確認する。 ○教師 T(スタッフ役)とキャサリン K・生徒 S　(メグ役)のやりとりを聞く。 ＜課題 Why is the jar a universal design?＞	○生徒とやりとりしながら、前時に学んだことを復習し、本時の状況を整理する。 ○まとめの活動の１つのモデルとなるように、導入する。 ○本時の活動の見通しを持たせるために、単元末活動について確認するとともに、本時の流れを説明する。
㊁ (30)	２．課題について考える ○実際に瓶を見たり、触ったりしながらペアでユニバーサルデザインが取り入れられている箇所（視点）を探し、キーワードをメモさせる。 ・点字みたいなぶつぶつがあるぞ。 ３．ペアなどで考えを交流し、伝える ○ユニバーサルデザインではないかと思う箇所(視点)を伝え合う。 ○ペアで確認した後に、グループで意見交流する。 ・やっぱりふたはユニバーサルデザインなのかも。 ４．全体で共有する ○全体で、どこがユニバーサルデザインなのかを共有する。 ・理由を we can や easily を使って言っていたな。 ５．本文ではどの視点を紹介しているか理解する ○Listening を行う。 ・点字について触れていたな。 ○導入できていない新出語句を確認する。 ○Reading を行う。 ６．ペアで説明し合う ○練習タイムを設ける。 ○ジャムの瓶に取り入れられているユニバーサルデザインの中で自分が伝えたいものを選び、スタッフになりきって説明する。 まとめ（例 This jar is a universal design because it has braille for blind people. Also, it has a picture of a strawberry, so it’s easy to understand for kids.	○課題について自分の考えを持てるようにするために、２人で１つジャムの空き瓶を配り、探す時間を設ける。 ○本時の新出英単語を導入するために、それを使いたい生徒を意図的指名し、全体に広げる。 ○多様な視点に触れさせるとともに、ねらいを達成する助けとなるように、キーワードを構造的に板書する。 ○スタッフはどの視点を説明しているか聞き取るために、Listening Point を与える。 ○自分の選んだ視点をどのように説明するか整理するために、まとめの活動の前に時間を与える。 ●ユニバーサルデザインの視点からジャムの瓶を考察し、ユニバーサルデザインが取り入れられている箇所（視点）の中で自分が伝えたいものを選び、その良さを説明している。 【思考・判断・表現】 〈行動観察・ワークシート〉 ※（C→B） 上手に説明している生徒を全体にモデルとして、紹介する。
㊂ (10)	７．本時をふりかえる ○ Writing を行う。 ○本時の活動でわかったことやできたこと、できなかったことなどをワークシートに書く。	○どのように説明できていたかを把握するために、説明した視点の内１つを英語で書かせる。

令和５年度　郡市活動報告

野々市市

報告者：野々市市立野々市中学校
竹田　さくら

■　令和５年度郡市研究テーマ

小学校外国語科：・外国語活動を通して、積極的にコミュニケーションをはかろうとする児童の育成
中学校：対話的な活動を通したコミュニケーション能力の育成

小学校と中学校の効果的な接続を意識し、“積極的な交流”から“対話的な活動”をキーワードに、生徒たちのコミュニケーション能力の育成をめざす。

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月２０日（木）	研究部会① 内容：各部組織会および年間計画案決定
６月７日（水）	研究部会②（研究授業等） 内容：実践事例を持ち寄り、情報交換
８月１０日（木）	野々市市教育研修会（小中連携） 内容：ICT 機器の効果的な授業づくりについて/小中連携した英語教育の取り組みについて
８月２１日（月）	夏季全体研修会（教育講演会）
１０月１１日（水）	研究部会③ 時間：１４：００～１４：４５ 場所：野々市市野々市中学校 内容：授業力向上研修　小林教諭による研究授業、授業整理会 参加者：１８名
1 月下旬	研究部会④ 各会場にてデータ共有、C4th でやりとり

■　成果と課題

（１）成果

研究部会を通して、本年度のテーマを達成するための情報共有をし、小中連携した取り組みについても話し合うことができた。特に、ICT 機器などの視覚教材を授業で効果的に導入することについて共有し、生徒の興味・関心をもたせることや、理解を促すことに力を入れることができた。

（２）課題

ICT 機器の効果的利用法について考えるうえで、どの場面で、どのように使うことがよいのかは今後も課題であると考える。「言語活動」、「相手」、「場面」を存在させ、コミュニケーション能力を高める授業づくりを考えていかなければならない。

英語科学習指導案

令和５年１０月１１日（水）第５限
場　所　２年７組教室
指導者　小林　千賀子
Hunt Stephanie

1　本時の学習

（1）　題　材　　Unit4 Unit Activity

（2）　本時のねらい　日本の習慣やマナーについて考えを整理して、紹介することができる。

（3）　学習過程

過程	配時	・学習活動とおもな思考の流れ ＊予想される生徒の反応	・指導と〇評価 ☆思考を深める発問 ※評価規準に達しない生徒への支援
導入	5分	・Greeting １．学習課題をつかむ JTE: Last class, Stephanie told you about some problems with Japanese customs and manners. Give her some advice to solve the problems. 課題：＜ Let’s give some advice about Japanese customs and manners. ＞ JTE : What problems does she have? ＊　:　She has a problem with meals / shoes / shrines.	・スライドを提示して、前時の学習内容を思い出す。
展開	30分	２．課題について考える ・ステファニーへのアドバイスを考える（個） 前時に作成したメモをもとに、英文でどのように言えばよいか考えを整理する。 ＊You have to や You must を使えばいい。 You should も使えそう。 ・ペアでアドバイスを紹介し合ってから、グループで内容を吟味する。 ＊分かりやすく伝えるにはどうすればいいか。 アドバイス以外に付け加えた方がいいかも。 ・グループごとにアドバイスを発表し、他の班からも意見をもらう。 ・ALTにもうひとつ質問してもらい、即興で英文を考えてみる。 ALT : I have another problem with New Year’s Greeting card.　Please tell me about it.	☆習慣やマナーを説明するだけでなく理由なども伝えるとよい。 〇日本の生活の習慣やマナーについて伝えることができる。 （【思】観察・発表） ※キーワードや文法を教えて、内容を伝えられるようにする。
まとめ	12分	３．本時のまとめ、振り返り ・ワークシートに自分の考えや発表内容を書く まとめ：　We’re going to tell you about…/You have to… You should… 振り返り：Unit4を通して，どんなことができるようになったか。これからどんなことができるようになりたいか。	

令和５年度　郡市活動報告

金沢市

報告者：金沢市立泉中学校
安江　靖子

■　令和５年度郡市研究テーマ

言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する授業づくり
～金沢型学習スタイルをベースに～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
５月２６日（金）	発足会 ・部長挨拶　・幹事長挨拶　・研究テーマの確認　・組織について ・英語スピーチコンテスト、研究授業輪番制の確認
６月２３日（金）	研究授業 金沢市立高尾台中学校　河原　愛教諭 ３年　Unit 3 Animals on the Red List
８月２１日（月）	（研究部、スピーチコンテスト委員会のみ） （研 究 部）・県小中英研　８地区研究発表会について協議 ・授業実践交流会 （スピーチ）・１０月のスピーチコンテストの運営について協議
１０月７日（土）	第４９回 英語スピーチコンテスト
１１月２４日（金）	８地区研究発表会のプレゼンテーション発表 金沢市立高尾台中学校　吉岡　恵梨教諭
１月１９日（金）	講演会「次年度に向けての課題」 ワークショップ「CAN-DO リストの見直し」 金沢市教育委員会　林　耕次主任指導主事

■　成果と課題

今年度も多くの先生方に参加していただき、研究授業やスピーチコンテスト等多くの活動を実施することができた。特に、８地区研究発表会を通して、金沢市でテーマを共有し、そのテーマに沿って先生方がどのような授業を実践しているのかを交流したこと、そして CAN-DO リストの見直しをするに当たって、同じ学年を担当している他校の先生方と交流したことが印象に残っている。金沢市の先生方と交流する機会は中教研しかないので、すごく刺激を受けた。所属している人数が多いので、これからも交流を大切にして活動していきたいと感じた。

来年度も多くの先生方に参加していただけるよう、活動内容を工夫し、金沢市の先生方の実践を広げていきたい。

3年5組　英語科学習指導案

実施日　６月２３日（金）６限
指導者　河原　愛

（１）教材名
Unit 3　Animals on the Red List　(Scene 2)　２次　２／３時間

（２）本時のねらい
絶滅のおそれのある動物を守るために、したらよいことを考えて提案することができる。

（３）本時の展開

学習活動（○） 主な思考の流れ（・）	配時	指導及び支援（・）と評価（※） 主体的・協働的な学びのための支援（☆）
1　Warm-up（1 min. Talk） ○ 好きな動物について話し合う。 ・相手はどんな動物が好きなのだろう。	7	☆ペアを変え、複数の相手と話せるようにする。 ・途中で聞き取ったよい表現や気を付けるべきことなどをフィードバックする。
2　Review ○ 絶滅のおそれのある動物を思い出す。 ○ 本文の内容を思い出す。	5	・写真を用いて絶滅のおそれのある動物を確認する。 ☆ペアで確認する場面を多く設け、できるだけ多くの生徒が発言できるように配慮する。
3　本時の課題をつかむ	2	・絶滅危惧種について課題意識を持たせる。
絶滅のおそれのある動物についてどのように啓発できるだろう		
4　会話のどの部分が変えられそうかを考える。	7	・デジタル教科書にアレンジできそうなところをマークさせる。（３ヶ所程度ある）
○ ペアで会話をアレンジする。 ・学級新聞以外にもできることがあるかな。 ・まずはいくつかの単語を変えてみよう。	7	・話す相手を意識して会話するように助言する。 ・活動の様子を見取り、会話の仕方や機器の使い方について必要なところに支援を行う。
5．会話を実践する。 ○ ペアで会話の様子を動画撮影し、オクリンクに送る。 ○ 会話の様子を見合う。 ・○○さんの表現は参考にしたい。	１８	※活動に積極的に取り組み、絶滅のおそれのある動物を守るために取り組めることを提案している。 【思】【態】＜活動の観察・動画＞
6．まとめる	1	
例　Pandas, tigers, and elephants are in danger of extinction. I want many people to do something for this problem.　Why don’t we tell Takaodai students about this problem?		
7　振り返る ○ 振り返りシートに本時の取り組みを記述する。 ・オリジナルの会話を考えられた。 ・アレンジすることにより、どのような解決策があるかを考えられた。	3	・振り返りのポイントを示す。 (会話をアレンジすることによって、絶滅のおそれのある動物について啓発することができたか)

令和５年度　郡市活動報告

かほく郡市

報告者：津幡町立津幡中学校
澤　友香

■　令和５年度郡市研究テーマ
英語によるコミュニケーション能力の育成
～「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める指導法の工夫～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月１９日（水）	組織会 研究主題の設定、年間計画の作成
５月３１日（水）	研究授業 授業者　地藤　璃紅　教諭（高松中学校） Laura Marie Harrelson
１０月１１日（水）	研究授業 授業者　釜田　一磨　教諭（内灘中学校）

■　成果と課題

成果としては、マッピングなどの思考ツールを利用し、キーワードを基にやりとりを行うことを継続することで、生徒は情報の整理がスムーズにできるようになった。その結果、自分の考えを明確にでき、表現方法を工夫しながら話す様子が見られた。また、ペア活動を繰り返し、その活動の中で、教師側が適切に中間評価を行い、全体にフィードバックすることで、伝える相手を意識し、目的・場面・状況に適した内容を考えることができるようになってきた。今後も自分の考えや気持ちを伝える力を向上させるために、即興でのやりとりから、中間評価を生かして、目的・場面・状況に応じて英語でコミュニケーションを行っていくことを継続していく必要がある。

今後の課題は、生徒が「話したい、伝えたい」とより主体的に取り組める課題設定を工夫し、目的・場面・状況を教師と生徒が共有することである。また、生徒がよりよい英語表現や深まりのある内容に触れられるようにフィードバックを行い、再構築を通して、最終的に目的・場面・状況に応じて相手に適切に伝えられる力を身に付けられるよう指導していきたい。

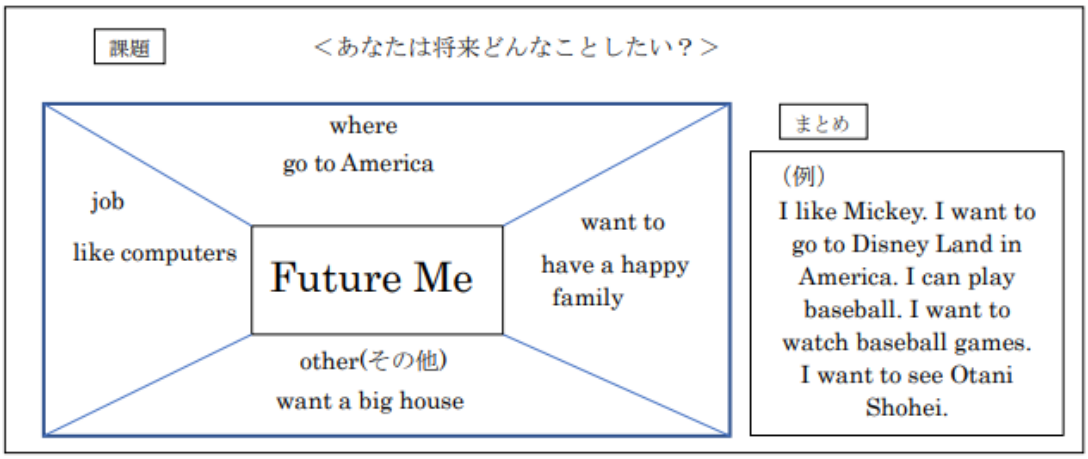
来年度はできるだけ本物のコミュニケーションに近い場面を設定するため、郡市内の他校と授業研究について交流する機会をより多く設けたい。

研究授業の要点

①高松中学校　地藤　璃紅　教諭　研究授業（5 月 31 日）

1 年生「Unit3　Club Activities」を題材とし、「自分が将来就きたい職業についてや、将来したいこと、行きたい国などについて相手に伝えることができる」（思考・判断・表現）をねらいとした授業であった。本時では、教師側から、7 月に姉妹都市であるドイツのメスキルヒ市から中学生が来日し、彼らと将来の夢について伝え合う時間があるということを伝え、課題となる“あなたは将来どんなことをしたい”を生徒に提示するという流れで導入が行われた。展開の部分では、思考ツールを使用し、生徒が個人で将来のことを考え、その考えをペアで共有した。その後、ドイツの生徒が夢について話す英文を ALT が紹介し、その英語表現と内容を参考に自分の思考ツールを再構築した。終盤ではグループで夢について伝え合い、自分が伝えた内容をノートに書いてまとめた。

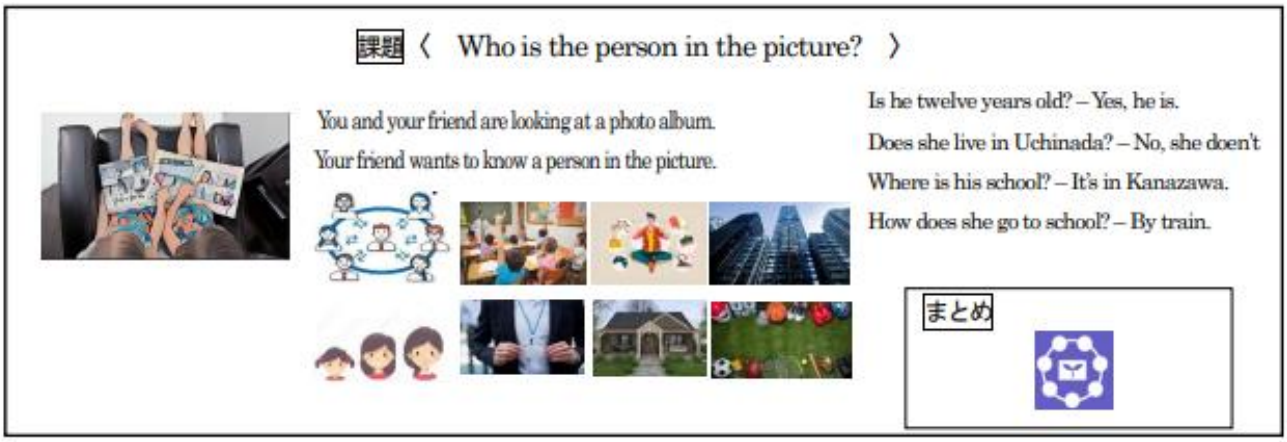
板書



②内灘中学校　釜田　一磨　教諭　研究授業（１０月１１日）

1 年生「Unit６　A Speech about My Brother」を題材とし、「家族や身近な人のことについて、簡単な語句や文を用いてやりとりすることができる」（思考・判断・表現）をねらいとした授業であった。本時では、今はアルバムで写真を見ている状況で、そのアルバムに載っている人物について友達が知りたがっている、という場面設定を教師側から英語で説明し、課題となる“Who is the person in the picture?”を生徒に提示するという流れで導入が行われた。展開の部分では、クロムブックで写真を相手に見せ、何度もペアをかえて伝え合う活動を繰り返し、互いに聞き合った後は質問をして、内容を付け加えるという活動であった。終盤ではペアで会話を録音し、まとめとした。

板書



令和５年度　郡市活動報告

羽咋市

報告者：羽咋市立羽咋中学校
浅野　敏一

■　令和５年度郡市研究テーマ
「豊富な英語のやり取りにあふれた教室
～OUTPUT を引き出すための ICT 活用～」

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月１２日(水)	部会組織の決定（瑞穂小学校にて） ・研究主題と推進計画の決定
６月　７日(水)	ICT 活用実践報告（瑞穂小学校にて）
９月　８日(金)	研究授業（羽咋中学校にて） １年生　Unit 6　A Speech about My Brother 授業者　青野　剛　教諭（羽咋中学校）
１１月１５日(水)	今年度の研究のまとめと反省（瑞穂小学校にて）

■　成果と課題

【成果】

・児童・生徒からアウトプットを引き出し，豊富な英語のやり取りにつなげ，さらに深めていくために，ICT活用が有効だった。
・ICTを活用することで，自分の考えを表現する機会が増え，自己存在感や自己有用感を高めることができた。
・部会での情報交換や共通実践により，小中連携がよりスムーズになり，小学校での学びを中学校で有効に生かすことができた。

【課題】

・書くことに関して，児童・生徒の過剰な負担とならないように技能を向上させていくにはどうすべきか検討する必要がある。
・学びの土台となる，安心して授業が受けられる風土や共感的な人間関係のある学習集団を育てていくことが大切である。
・児童・生徒に相手意識や目的意識をもたせ，自己決定する場面でより委ねることで，さらに多様な表現や考えを引き出すことができるよう，今後も授業改善を進める。

■ 研究授業（９／８　青野教諭）より

【本時のねらい】
前置詞，like〔enjoy〕…ing，be good at …ing の理解をもとに，クラスメイトの好きなことや得意なことについて書く。

【ICT 活用のポイント】
どのように質問すればよいか分からない生徒が参考にできるように，生徒が考えた質問をロイロノートで共有する。

【授業整理会　参観者より】

〇前時の復習からスムーズに活動がつながっていた。
〇ジャンケンで負けた生徒が移動しペアを変える方法がスムーズでよかった。
〇言語面の正確さに向けて練習するだけでなく，インタビューやクイズ等，楽しく活動する場面も取り入れている。
〇質問のやり方の一覧があったので，活動中に色々な表現が使われていた。
〇ワークシートが見やすく，その中での質問も理解の助けとなっていた。
〇誰のことを言っているのかを当てるゲームにより，授業の楽しさが向上した。
〇最後のGoogle Formsを用いての振り返りを通して，生徒の現状をその場で客観的なデータとして教師も生徒も把握できた。
△最初の「つかむ」の場面で，実際に生徒に話させながら復習すればよかった。
△課題の「友達になりきって～」が不自然だった。
△課題提示の際，本時の目標が「知識・技能」であることをもう少し強く念押しするとよかった。
△分からない単語や表現を自分で調べる習慣をつけさせたい。
△最後のクイズは生徒に読ませるとよかった。
△クイズの答えを示した後で，間違いを生徒に気付かせたい。

令和５年度　郡市活動報告

羽咋郡

報告者：志賀町立志賀中学校
大岡　真弓

■　令和５年度郡市研究テーマ

英語で伝え合い、コミュニケーションを図ることができる実践的英語力の育成
～小中連携の充実を図る～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
５月１０日（水） ※電話会議	・部会組織，事業計画，及び予算作成等
１０月２０日（金） 志賀小学校	・第１回研修会 第５学年 研究授業 Unit 6　What would you like? ～志賀町ショップを開こう～ 授業者　紙谷　薫子 ALT　　Deakin Brock

■　成果と課題

【成果】

デモンストレーションで児童に「やってみたい」という動機づけができていた。児童が学習活動を選択する時間、「志賀っ子タイム」の取り組みについて課題はあるものの、一人ひとりが自己決定できる場面がたくさんあった。「目的」を持って自己決定し、学び合いができることが大切だと確認できた授業だった。互いに撮影する→見たくなる→何かしっくりこない→黒板に行き友達に単語の読み方を質問する＝児童同士で学びあって疑問点を解決しようとする姿があった。児童が適切な決定ができるようになるには時間がかかる＝まずやってみること。単元ゴールにつながるための言語活動に繰り返し取り組ませる。「まるで漆塗りのように」ゴールに向かって内容面・言語面ともに少しずつレベルアップしていくことをイメージして授業を積み重ねることが大切であることを学ぶことができた。

【課題】

児童の発話量が少なかった。ALT の発話で何を話しているか目的意識を持って聞くようにさせる。児童が活動に入る前、または活動を一旦ストップして確認の時間を設定する。ＡＬＴがもっと児童の対話に入るとよかったのではないか。

主な学習活動の流れ	配時	JTE の動き	ALT の動き	・指導上の留意点 □評価規準　○指導 「ゆさぶり」
1　Warming up ～つかむ～ Greeting Let's sing	4	Let's start English.	Let's start English.	・全体に挨拶をして，気分や天気，曜日を確認したり，歌を歌ったりして外国語の雰囲気を作る。
2　Small Talk ～知る～ Pair work	10	T1: What food do you like? T2: I like pizza. T1: Why? T2: I like cheese. It's delicious. T1: I see. T2: How about you?		○２回聞かせる。言いにくいところがないか確認し，ペア活動へとつなげる。
3　Activity1 ～学び合う～ **志賀っ子タイム** ・味や食感を伝えたい。 ・肉が好きか聞いてみたい。 ・特徴を伝えたい。 ・食べては英語でどう言うのかな。	20	～志賀町の魅力が伝わる店員と客のやり取りを考えよ ◎志賀町の魅力が伝わるように店員と客のやり取りをしてみましょう。	・児童の様子を見て回り，やり取りをしたり，アドバイスを行ったりする。 ・児童が英語で伝えたい表現などを発音する。	**・自分の課題について，個々で考えられるようにするために学習の仕方を選択して既習表現を想起し，表現を選択したり付け加えたりしながら志賀町の魅力が伝わるようにする。** **・ALT の注文の様子の動画を見返したり，自分たちで動画を撮影したり，メニュー表を共有したりして，児童が自分で学習の仕方を選択できるようにする。** □伝えたい内容に困っている児童がいたら，まず日本語でどう言いたいかを考えさせるように促す。
4　Reflection ～まとめる・ふり返る～	5	◎友達のやり取りでよかったところや，やり取りで困ったところはありますか。		・「どんな内容をどんな表現でどうやり取りすると志賀町の食の魅力が伝わるかな」(個へのゆさぶり) ・困っているところやよいところを取り上げ，全体で共有する。
		C1: What would you like? This is Shika No.1 food.Please try it. T1: Sure. I'd like Korogaki parfait and juice. C1: Korogaki parfait and juice? T1: Yes, please.		
	5	◎ふり返りをしましょう。		・Forms で分かったことやできるようになったことなどを振り返らせる。
5　Greeting 終わりのあいさつ	1	Let's finish English.	Let's finish English.	

令和５年度　郡市活動報告

七尾市

報告者：七尾市立七尾中学校
宮島　梨乃

■　令和５年度郡市研究テーマ

「自分の思いや考えを表現できる児童・生徒の育成」～言語活動の充実を通して～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4 月 19 日（水）	組織会
5 月 10 日（水）	研究授業のアイデア集め（今の情報交換＋公開授業の構想について）
6 月 7 日（水）	デジタル教科書や単元ゴール設定などの授業実践の交流
10 月 18 日（水）	研究授業に向けた事前検討会
10 月 26 日（木）	七尾市スピーチコンテスト
11 月 15 日（水）	研究授業【授業者：中村　遥教諭】
~~1 月 17 日（水）~~	~~今年度のまとめと次年度へ向けての課題~~

※1 月 17 日の研修会は地震発生・臨時休業の影響で実施無し

（行や表は活動内容によって、各自で増減してください。）

■　成果と課題

【成果】

今年度も小中連携による研究を進めることができた。10 月に行われた研修会では，石川県教員総合研修センターより西野指導主事をお招きし，単元を通して生徒を見取るために，どのようなことが単元デザインの設定において大切か学ぶことができた。それを踏まえ，小学校で行った研究授業では「七尾市の良さを市外の５年生に伝えること」を単元ゴールとして設定し，単に注文のやり取りで終始せず，ふるさとの良さについて自分たちの考えや気持ちを含めて話そうとする児童の様子を見ることができた。

【課題】

児童生徒間における英語の学力差が大きいことがある。また，それらに対応した指導が行えるよう，ICT 等を活用した指導の個別化をより一層充実させる必要がある。

七尾市スピーチコンテスト　３年生の部　最優秀賞
七尾市立七尾東部中学校　３年　木森　花

Title: Japanese Calligraphy

What Japanese culture do you want to share with foreign countries? There are many unique cultures in Japan. For example, flower arrangement and tea ceremony. Calligraphy is one of the most famous pieces of Japanese culture. I have been learning Japanese calligraphy since I was 8. I have two reasons to continue practicing calligraphy.

First, there are many kinds of fonts. Each is very different. I'm really interested in them. For example, stroke order and looks are very different for each font. Let's take a look at the kanji for my name "Hana". This is kaisho font. This one goes up. On the other hand, this is reisho font. This one goes straight. This is the biggest difference. Calligraphy is difficult, but it is fun to learn the differences and create works.

Second, you can get better at concentrating through calligraphy. When I create a work, I have to think about balance and space. You can't write beautiful words if you are not calm and focused. I go to calligraphy lessons once a week. It is a precious time where I can focus only on kanji.

Calligraphy is a wonderful part of Japanese culture. I want everyone to know the beauty of calligraphy, so please try it! Let's form a bridge between Japanese and foreign cultures together.

令和５年度　郡市活動報告

鹿島郡

報告者：中能登町立中能登中学校
山外　百合恵

■　令和５年度郡市研究テーマ

「友だちや先生とのやり取りを通して自己表現しようとする児童・生徒の育成」
～ICT の積極的な活用～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月１９日（水）	・組織決定 ・年間計画作成
９月２７日（水）	・各学校からの実践報告 ・情報交換（ICT の活用についてを中心に）
１月１７日（水）	・震災の影響で中止 ・紙面にて活動報告を共有

■　成果と課題

9 月に実践報告会を行うことができた。今年度は，小中共に GIGA の発表会があったことから，タブレット端末を使った効果的な学習活動について話し合うことができた。

（１）成果

・ライブモニタリング機能を使って，児童・生徒の学習状況を見取ることができた。
・英語でのコミュニケーションが苦手な児童も進んで参加する姿が見られた。
・リスニングで，聞きたい部分を自分で選んで英語を聞く生徒の姿が見られた。
・ヘッドセットを使って集中して聞くことができた。
・Question を作る活動では，生徒同士のやり取りが生まれ，進んで活動する姿が見られた。
・ヘッドセットを使い，音声を録音することができた。録音した英語を聞き，児童・生徒が納得いくまで何度も繰り返し練習することができた。

（２）課題

・中学校１年生の教科書は小学校の学習内容を土台に作られているが，例えば「過去形」等，小学校でどの程度教えているのか中学校の指導者は分からない。小中のギャップを埋めるために，学校間で情報交換を行うことが大切である。
・書くことの指導について，小学校では何をどのように指導すればよいか，迷うことがある。中学校の先生のアドバイスを受けたり，小学校の学校間で情報共有したりして指導できればよい。

・中学校の教科書の内容が難しい。以前のように単語や本文を丁寧に指導する時間が取れない。
・石川県の高校入試の難易度が高い。小学校の先生も一度入試問題を解いてみれば，中学校の生徒に求められている学力のイメージが持てるのではないか。

令和５年度　郡市活動報告

鳳珠郡

報告者：穴水町立穴水中学校
岡本　春佳

■　令和５年度郡市研究テーマ

「豊富な英語のやり取りにあふれた教室
～主体的・対話的な学びを深める授業を目指して～」

令和2年度の小学校の教科化を受け，新たな英語教育を実施していくためには小中を通じた英語教育の充実・強化が求められている。小学校，中学校の目標の達成に向けて，各段階の学びを円滑に接続させることが不可欠である。そのために，今年度も継続し「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」を主題として設定し，動画による授業研究や公開授業，情報交換を通して，小学校，中学校における指導の充実や，連携の在り方について研究をすすめてきた。

■ 年間の活動内容

月　日	内　容	場　所
4月19日（水）	部会組織決め 年間事業計画作成	能都中
7月26日（水）	動画による授業研究（柳田中　滝下　斗真　教諭） New Horizon English Course Book3 Unit3 Animals on the Red List	穴水小
10月4日（水）	公開授業（小木中　中谷　住枝　教諭） New Horizon English Course Book 2 Unit4 Homestay in the United States	小木中
1月10日（水）	研究のまとめ（中止）	穴水小

■　成果と課題

【成果】

○「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」という研究テーマのもと，授業動画を含めて2つの授業と，整理会をもった。実際の授業を見せ合うことで，どうしたら授業でのやり取りを充実させることができるかについて具体的に話し合うことができた。

○研究授業の参観から，小中の授業づくりについて理解を深めるとともに，中学校のオールイングリッシュの授業や小学6年生から中学1年生への指導のつながりを確認することができた。

【課題】

△「ねらいの達成につながる言語活動」にするために，目的を明確にした活動，生徒の実態に応じた支援・指導が必要である。

△今年度は中学校の授業のみの公開だったので，来年度は小学校の授業も公開し，小中連携して研究を進めていきたい。

■活動内容

(1)動画による授業研究 (柳田中 滝下 斗真 教諭)

題 材 :New Horizon English Course Book3
Unit3“Animals on the Red List” Read and Think2
ねらい:Unit3 で学習した文法事項などを用いて，ゴリラを守るために大切だと思うことを表現すること。

滝下教諭の授業の動画を視聴し，Read and Think の扱い方を中心に整理会をした。

【成果】

・生徒同士や生徒と教師のやりとりの中で，根拠を明確にする手立てを行っていた。
・導入が本時の内容にスムーズに結びつくものであった。

【課題】

・生徒のゴールの姿を明確にし，そのためにどのポイントをおさえるべきかを絞る。
・ねらいは内容を理解することではなく，読んだことをもとに自分の考えを表現することなので，そこに焦点を当てた活動の充実を図ることが必要である。
・活動ごとのテンポを上げるために，根拠に線を引くことや，ピクチャーカードを提示することなど補助教材を有効活用する。
・表現力向上のため，1対1のやり取りを全体に共有することで，多様な考えや表現に触れる工夫が必要である。

(2)中学校英語科の授業公開(小木中 中谷 住枝 教諭)

題 材:New Horizon English Course Book 2
Unit4 “Homestay in the United States” Scene2
ねらい:アメリカでホームステイ中の海斗とホストマザーの会話を読み，日本の学校でしなければならないことやしてはならいことについて，助動詞(must, must not)などを用いて書くことができる。【書くこと】

本時の課題は『日本の学校で「しなけらばならいこと」「してはならないこと」について書こう。』であった。学習活動として，ALT の兄弟から「日本の学校について教えてほしい」という場面設定から課題が提示された後，本文の内容について確認し，基本表現を参考にし，学校のルールについて英語で紹介をする活動を行った。

【成果】

①読み取りの仕方について
・目の前の生徒の実態に応じた oral introduction の内容だった。
・読む目的意識を持たせるための oral introduction になっていた。
・小学校では，ALT のやりとりなどを通して焦点を絞って内容理解に取り組んでいる。

②ねらいの達成につながる言語活動
・ねらいに対する目的や場面設定が，前時の授業とつながりがありスムーズだった。
・生徒が伝えたいことを自分のわかる言葉を使って，一生懸命伝えようとしていた。
・ルールを表現するだけでなく，理由(because)も求めることで自己表現の向上につながっていた。
・生徒から出てこない意見はヒントカードを用いることで，知らない文化(ルール)について興味を持たせることができた。

【課題】

・自力解決のための負荷や指導
→ヒントカードは自分で表現ができない生徒への最後の手段として扱う。また，ねらいを再度確認することで目的をもって伝える内容を選ぶことできる。
→板書には，must や must not 以下の表現が授業の最後まで書かれていたので，自力で表現できるようになるための板書の工夫が必要である。
・各学校の生徒の実態に合わせた言語活動を授業に組み入れ，適切な指導をする。
・活動ごとに生徒同士や教師が評価を入れることがねらいの達成につながる。

令和５年度　郡市活動報告

珠洲市

報告者：珠洲市立三崎中学校
苗代　勇輝

■　郡市研究テーマ

「豊富な英語のやりとりにあふれた教室
～進んで英語を使いたくなる場面設定の工夫～」

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4 月 19 日（水）	・研究組織づくり、研究主題設定、年間計画の検討
7 月 5 日（水）	・実践交流(小中交流)、市英語スピーチコンテストに向けて（準備，運営について）
10 月 18 日（水）	・授業研究 New Horizon 1　Unit 7「Foreign Artists in Japan」 緑丘中学校　末田 翔吾 教諭
11 月 20 日（月）	・第１３回珠洲市中学生英語スピーチコンテスト
11 月 29 日（水）	・県小中英研発表(実践報告)、スピーチコンテストの振り返り
12 月 18 日（月）	・珠洲市スペリングコンテスト
2 月 7 日（水）	・~~研究のまとめ~~　→地震の為中止

■　成果と課題

【成果】

・小学校・中学校それぞれの実践交流を行ったことで、小中のつながりを意識した授業作りについて考えることができた。また、ICT の活用方法や部員それぞれが受けてきた研修についても交流ができ、すぐに実践できる取組を知ることができた。

・市英語スピーチコンテストは、時間制限を設けたことでこれまで以上に構成や話し方を考えて、準備している生徒がいた。

【課題】

・生徒が意欲的に活動するためには，客観的に自分は何ができるようになったかを把握し，自信を持つことが必要だと考える。そのために，Can Do リストを教師と生徒が共有し，今以上の活用を図る必要がある。

・４技能を統合した活動を効果的に行うために，小中がより連携して，９年間を見通した学習計画を作成するとともに各校の取組を共有していく必要がある。

■　活動の記録

（１）珠洲市スピーチコンテストの開催

・ALT による Warm up を行うことで、リラックスした雰囲気でスピーチを行うことができた。また、各校の生徒同士で簡単な英語での対話を行うことで他校の生徒とも交流の機会が持て、良い刺激となっていた。

・昨年度の最優秀賞を取った高校生と中学３年生の生徒にも英語でスピーチをしてもらった。それぞれの思いや英語力の向上を肌で感じ、来年度の目標にする生徒がいた。

（２）実践交流

・珠洲市中学校授業づくり研修を行い、珠洲市の生徒の課題を話し合い、英語力向上のための実践交流を行った。

各校で、生徒の発話量を増やすために帯活動を工夫した。ICT を活用した Small Talk、「3 分英作文」のライティング指導、「Cool Conversation challenge」など様々なものがあった。生徒からはポジティブな意見が多く、「英語で話すことが前よりも楽しくなった。」「いつの間にか書けるようになっていた。」「ALT といろんな話題で話せて異文化を深く知れた。」などがあった。

ALT と英会話チャレンジ

○3 分英作文

３分英作文の指導アイデア（明治図書より）を参考に英作文指導を行った。

①１時間の最初の３分で今回のテーマを提示し、そのテーマに沿う質問を１～２問出題し、答えをノートに書く。毎時間提出しチェックをうける。

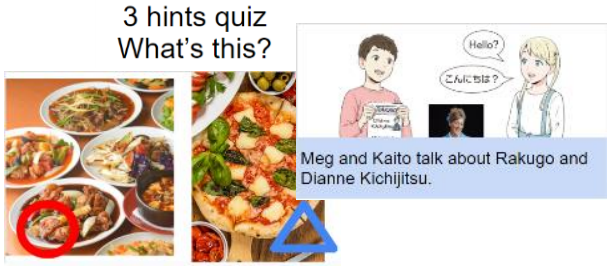
②数時間後、まとめの時間を取り、テーマに沿う英作文を完成させる。

③まとめを書く前段階での添削（毎時間の質問への解答）は細かく行っている。ただし、まとめのときはできるだけ添削しない。ミスがあるときは、アンダーラインのみ記す。

④①～③をテーマを変えて繰り返す。

（３）研究授業

・本時は Unit7 の第３時で、疑問詞 Which の導入を行った。参観者は①生徒の学習意欲を高める導入（場面設定）、活動であった。②生徒の英語のやりとりが活発に行われていたか、という視点で参観した。



授業は３ヒントクイズから、生徒が英語を積極的に使用する場面が見られた。教師が場面設定を工夫することで、最後まで意欲を持って取り組めていた。本文の中から本時で使えそうな表現を見つけさせることで、おさえたいキーフレーズに迫るだけでなく、本文の内容理解にもつなげていた。授業の最後には、学んだことを使って自分が気になるテーマについて自由にインタビュー活動を行った。個で考えた質問に対して、教師が的確に問い返しや気づきを与えることによって、活動の終わりには表現を使えるようになっていた。また、生徒同士がアドバイスし合うことで、考えの再構築が行われていた。